

令和 6 年度
障害者のスポーツに関する調査
結果報告書

令和 7（2025）年 3 月

神奈川県立スポーツセンター

令和 6 年度
障害者のスポーツに関する調査
結果報告書

令和 7（2025）年 3 月

神奈川県立スポーツセンター

目 次

I	調査の概要	1
1	調査目的	3
2	調査実施概要	3
(1)	調査地域	3
(2)	調査対象	3
(3)	調査方法	3
(4)	標本数	3
(5)	調査期間	3
(6)	調査委託機関	3
3	集計上の障害者種別について	4
4	調査項目	4
5	回答者の属性	5
II	調査結果の要約	7
1	運動・スポーツの実施状況及び意識	9
2	県・市町村のスポーツ施策	11
3	運動・スポーツの観戦状況	11
4	運動・スポーツに関する障壁及び必要な支援	12
III	調査結果の詳細	13
1	運動・スポーツの実施状況及び意識	16
(1)	平日の日中、過ごし方	16
(2)	運動・スポーツ関連情報ニーズ	18
(3)	1年間に行った運動・スポーツの種目	20
(4)	1年間に行った運動・スポーツの日数	22
(5)	運動・スポーツを行っている場所	26
(6)	運動・スポーツを一緒にする人	28
(7)	運動・スポーツをする理由	30
(8)	運動・スポーツを始めたきっかけ	32
(9)	今後（も）行いたい運動・スポーツ	34
(10)	スポーツクラブ・サークルについて	36
(11)	運動・スポーツを行わなかった理由	38
(12)	運動・スポーツ活動を行いたいと思わなかった理由	40
(13)	どのような運動やスポーツに参加したいか	42
2	県・市町村のスポーツ施策	44
(1)	県・市町村主催のスポーツ行事参加状況	44
(2)	県・市町村主催のスポーツ教室参加状況	46
(3)	県・市町村主催のスポーツ行事・教室参加意向	48
(4)	「かながわパラスポーツ」の認知	50
3	運動・スポーツの観戦状況	52
(1)	スポーツ観戦への関心	52
(2)	スポーツ観戦経験	54

(3)	会場で直接観戦したいスポーツの規模	56
(4)	会場で直接観戦したいスポーツの競技	58
(5)	テレビやインターネットなどでのスポーツ観戦経験	60
(6)	テレビやインターネットなどで観戦をしたいスポーツの規模	62
(7)	テレビやインターネットなどで観戦をしたいスポーツの競技	64
4	運動・スポーツに関する障壁及び必要な支援	66
(1)	運動・スポーツをする際の障壁	66
(2)	運動・スポーツをする際に必要な支援	68
(3)	スポーツ観戦する際の障壁	70
(4)	スポーツ観戦する際に必要な支援	72
IV	資料	75
	アンケート調査	76

注) 「しょうがい」という言葉には、「障がい」「障碍」など様々な表記があります。
 本調査では、法令等における表記である「障害」を使用しています。

I 調査の概要

1 調査目的

今後の本県における障害者スポーツの推進に向け、障害者のスポーツに関する意識や実態を把握することにより、令和5年3月に見直した県のスポーツ推進計画における数値目標の達成度や、事業の効果等を測ることを目的として、新たに県民へのアンケート調査を実施する。

2 調査実施概要

(1) 調査地域

神奈川県全域

(2) 調査対象

県内に居住する障害者本人あるいは同居する家族に障害者・児（6歳以上）がいる方
※小学生以上が対象

(3) 調査方法

「楽天インサイト」パネル登録モニター（約220万人）を対象としたWEBアンケート調査

(4) 標本数

回収標本数2,696サンプル（県内に居住する6歳以上の障害者〔身体障害者、知的障害者、精神障害者、その他〕あるいはその同居する家族とし、それぞれ回収目標数に割り付けて設定）

(5) 調査期間

令和6（2024）年6月24日（月）～7月24日（水）

(6) 調査委託機関

株式会社サーベイリサーチセンター

3 集計上の障害者種別について

この調査の実施に当たって、次の種別を分析軸の類別に用いた。種別と該当障害の種類は次のとおり。

種別	障害の種類
① 視覚障害	視覚障害
② 聴覚・平衡機能障害	聴覚・平衡機能障害
③ 声・言語・そしゃく障害	声・言語・そしゃく障害
④ 肢体不自由	肢体不自由(上肢、下肢、体幹、脳原性運動機能障害)
⑤ 内部障害	内部障害
⑥ 知的障害	知的障害
⑦ 精神障害	精神障害
⑧ その他	その他

4 調査項目

1 運動・スポーツの実施状況及び意識

(1) 平日の日中、過ごし方、(2) 運動・スポーツ関連情報ニーズ、(3) 1年間に行った運動・スポーツの種目、(4) 1年間に行った運動・スポーツの日数、(5) 運動・スポーツを行っている場所、(6) 運動・スポーツを一緒にする人、(7) 運動・スポーツをする理由、(8) 運動・スポーツを始めたきっかけ、(9) 今後(も)行いたい運動・スポーツ、(10) スポーツクラブ・サークルについて、(11) 運動・スポーツを行わなかった理由、(12) 運動・スポーツ活動を行いたいと思わなかった理由、(13) どのような運動やスポーツに参加したいか

2 県・市町村のスポーツ施策

(1) 県・市町村主催のスポーツ行事参加状況、(2) 県・市町村主催のスポーツ教室参加状況、(3) 県・市町村主催のスポーツ行事・教室参加意向、(4) 「かながわパラスポーツ」の認知

3 運動・スポーツの観戦状況

(1) スポーツ観戦への関心、(2) スポーツ観戦経験、(3) 会場で直接観戦したいスポーツの規模、(4) 会場で直接観戦したいスポーツの競技、(5) テレビやインターネットなどでのスポーツ観戦経験、(6) テレビやインターネットなどで観戦したいスポーツの規模、(7) テレビやインターネットなどで観戦したいスポーツの競技

4 運動・スポーツに関する障壁及び必要な支援

(1) 運動・スポーツをする際の障壁、(2) 運動・スポーツをする際に必要な支援、(3) スポーツ観戦する際の障壁、(4) スポーツ観戦する際に必要な支援

5 回答者の属性

数値の単位：実数＝回答人数、％＝項目ごとの比率

(1) 障害種別

	視覚障害	聴覚・平衡 機能障害	音声・言語・ そしゃく障害	肢体不自由	内部障害	知的障害	精神障害	その他
実数 2,696	151	176	62	870	349	495	833	23
※ %	5.6	6.5	2.3	32.3	12.9	18.4	30.9	0.9

※障害種別は複数選択の回答があるため、合計値は100％とはならない

(2) 性別

	男性	女性
実数 2,696	1,555	1,141
% 100.0	57.7	50.0

(3) 年代別

	6～17歳	18～19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
実数 2,696	302	51	280	236	348	434	370	675
% 100.0	11.2	1.9	10.4	8.8	12.9	16.1	13.7	25.0

Ⅱ 調査結果の要約

1 運動・スポーツの実施状況及び意識

（１）平日の日中、過ごし方＜P. 16＞

全員に、平日の日中、主にどこで過ごしているのかたずねたところ、「自分の家」（54.5%）が最も高く、次いで「職場（一般企業など）」（21.5%）、「学校」（8.0%）となった。

（２）運動・スポーツ関連情報ニーズ＜P. 18＞

全員に、運動やスポーツに関してどのような情報が欲しいかたずねたところ、「健康・体力づくり情報」（21.0%）が最も高く、次いで「高齢者や障害のある方が参加しやすいイベントや教室の情報」、「スポーツ行事やスポーツイベントの情報」（いずれも12.7%）となった。

（３）１年間に行った運動・スポーツの種目＜P. 20＞

全員に、学校の保健体育の授業以外で、この１年間に運動・スポーツを行ったかたずねたところ、「ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩など）」（41.4%）が最も高く、次いで「体操（ラジオ体操、職場体操、ストレッチ、エアロビクス、ヨガ、ピラティス、縄跳びなど）」（14.8%）、「室内運動器具（ウエイト器具、ランニングマシン、バランスボールなど）を用いる運動」（10.1%）となった。なお、「特になし」は、42.9%であった。

（４）１年間に行った運動・スポーツの日数＜P. 22＞

いずれかの運動・スポーツを行った人（1,539人）にこの１年間で運動・スポーツをどの程度行ったかたずねたところ、「週３日以上（年151日以上）」（23.7%）が最も高く、次いで「週１日程度（年51日～100日）」（22.2%）、「週２日程度（年101日～150日）」（15.4%）となった。

（５）運動・スポーツを行っている場所＜P. 26＞

いずれかの運動・スポーツを行った人（1,539人）に、運動・スポーツを行っている場所についてたずねたところ、「道路や遊歩道」（43.1%）が最も高く、次いで「自宅」（36.1%）、「広場や公園」（25.9%）となった。

（６）運動・スポーツを一緒にする人＜P. 28＞

いずれかの運動・スポーツを行った人（1,539人）に、運動・スポーツを一緒にするのは誰かたずねたところ、「一人」（53.7%）が最も高く、次いで「家族」（30.8%）、「福祉施設の職員・仲間」（9.9%）となった。

（７）運動・スポーツをする理由＜P. 30＞

いずれかの運動・スポーツを行った人（1,539人）に、運動・スポーツをする理由をたずねたところ、「健康・体力づくりのため」（69.3%）が最も高く、次いで「運動不足の解消のため」（52.4%）、「楽しみ、気晴らしのため」（41.1%）となった。

（８）運動・スポーツを始めたきっかけ《P. 32》

いずれかの運動・スポーツを行った人（1,539人）に、運動・スポーツを始めたきっかけをたずねたところ、「家族に奨められた」（23.9%）が最も高く、次いで「医師に奨められた」（19.9%）、「作業療法士（OT）・理学療法士（PT）・看護師等の医療従事者に奨められた」（11.2%）となった。

（９）今後（も）行いたい運動・スポーツ《P. 34》

いずれかの運動・スポーツを行った人（1,539人）に、今後（も）行いたいと思う運動・スポーツについてたずねたところ、「ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩など）」（70.1%）が最も高く、次いで「体操（ラジオ体操、職場体操、ストレッチ、エアロビクス、ヨガ、ピラティス、縄跳びなど）」（29.6%）、「室内運動器具（ウエイト器具、ランニングマシン、バランスポールなど）を用いる運動」（23.7%）となった。

（10）スポーツクラブ・サークルについて《P. 36》

いずれかの運動・スポーツを行った人（1,539人）に、スポーツクラブやサークルに所属しているかたずねたところ、所属している人では「民間の会員制スポーツクラブやフィットネスクラブに所属している」（5.6%）が最も高く、次いで「友人・知人が中心のクラブ・同好会・サークルに所属している」（4.9%）、「地域住民が中心となったクラブ・同好会・サークル（総合型地域スポーツクラブ以外）に所属している」（4.5%）となった。なお、「所属していない」は、76.4%であった。

（11）運動・スポーツを行わなかった理由《P. 38》

いずれかの運動・スポーツを行っていない人（1,157人）に、運動やスポーツを行っていない理由をたずねたところ、「活動したいが、身体的にできない」（16.7%）が最も高く、次いで「活動したいが、時間がない」（6.2%）、「活動したいが、自分に合った運動やスポーツの情報がない」（5.1%）となった。なお、「活動したいと思わない」は68.5%であった。

（12）運動・スポーツ活動を行いたいと思わなかった理由《P. 40》

運動やスポーツの活動を行いたいと思わない人（793人）に、活動したいと思わない理由をたずねたところ、「疲れるから」（18.9%）が最も高く、次いで「運動・スポーツが嫌いだから」（15.1%）、「運動・スポーツに興味がないから」（13.4%）となった。なお、「わからない」は47.9%であった。

（13）どのような運動やスポーツに参加したいか《P. 42》

この1年間に運動・スポーツを行った人、活動したいと思っている人（1,903人）に、どのような運動やスポーツであれば参加したいと思うかたずねたところ、「自分のペースに合わせてできる」（51.9%）が最も高く、次いで「予約や申し込みなしに、参加したいときに参加できる」（34.8%）、「ルールが簡単」（29.3%）となった。

2 県・市町村のスポーツ施策

（１）県・市町村主催のスポーツ行事参加状況《P. 44》

全員に、この１年間に県や市町村が主催するスポーツ行事に参加したことがあるかたずねたところ、「参加した」が2.7%、「観に行った」が0.5%となった。なお、「参加しなかった」は96.8%であった。

（２）県・市町村主催のスポーツ教室参加状況《P. 46》

全員に、この１年間に県や市町村が主催するスポーツ教室に参加したことがあるかたずねたところ、「参加した」が1.9%、「参加しなかった」が98.1%であった。

（３）県・市町村主催のスポーツ行事・教室参加意向《P. 48》

全員に、スポーツ行事やスポーツ教室に参加したいと思うかたずねたところ、《参加したい群（「ぜひ参加したい」＋「できれば参加したい」）》が9.8%、《参加したくない群（「あまり参加したくない」＋「参加するつもりはない」）》が90.2%であった。

（４）「かながわパラスポーツ」の認知《P. 50》

全員に、「かながわパラスポーツ」を知っているかたずねたところ、「知らない」（79.4%）が最も高く、次いで「知っている（聞いたことはある）」（18.6%）となった。また、《認知群（「内容を詳しく知っている」＋「知っている（聞いたことはある）」》は、全体の20.6%であった。

3 運動・スポーツの観戦状況

（１）スポーツ観戦への関心《P. 52》

全員に、スポーツ観戦について関心があるかたずねたところ、「ある」が45.7%、「ない」が54.3%であった。

（２）スポーツ観戦経験《P. 54》

全員に、この１年間で直接会場へ行ってスポーツ観戦をしたかたずねたところ、「した」が15.4%、「していない」は84.6%であった。

（３）会場で直接観戦したいスポーツの規模《P. 56》

スポーツ観戦について関心がある人（1,233人）に、直接会場へ行ってスポーツ観戦をしたら、どのような規模のスポーツ観戦をしたいかたずねた（2つまで回答可）ところ、「国内のプロスポーツ」（58.2%）が最も高く、次いで「オリンピックやパラリンピックなど国際大会」（38.4%）となった。

（４）会場で直接観戦したいスポーツの競技《P. 58》

全員に、直接会場へ行ってスポーツ観戦をしたら、どのような競技を観戦したいかたずねた（3つまで回答可）ところ、「野球、ソフトボール」（29.0%）が最も高く、次いで「サッ

カー、フットサル」(19.8%)、「陸上競技」(10.1%)となった。なお、「特になし」は、39.9%であった。

(5) テレビやインターネットなどでのスポーツ観戦経験<P. 60>

全員に、この1年間でテレビやインターネットなどでスポーツ観戦をしたかたずねたところ、「した」が60.3%、「していない」が39.7%となった。

(6) テレビやインターネットなどで観戦をしたいスポーツの規模<P. 62>

全員に、テレビやインターネットなどでスポーツ観戦をしたら、どのような規模のスポーツ観戦をしたいかたずねた(2つまで回答可)ところ、「オリンピックやパラリンピックなど国際大会」(45.5%)が最も高く、次いで「国内のプロスポーツ」(43.8%)となった。なお、「特になし」は、33.4%であった。

(7) テレビやインターネットなどで観戦をしたいスポーツの競技<P. 64>

全員に、テレビやインターネットなどでどのような競技を観戦したいかたずねた(3つまで回答可)ところ、「野球、ソフトボール」(36.5%)が最も高く、次いで「サッカー、フットサル」(26.3%)、「バレーボール」(14.9%)となった。なお「特になし」は、31.3%であった。

4 運動・スポーツに関する障壁及び必要な支援

(1) 運動・スポーツをする際の障壁<P. 66>

全員に、運動やスポーツをする際の障壁についてたずねたところ、「障壁はない」(17.5%)が最も高く、次いで「金銭的な余裕がない」(16.0%)、「家族の負担が大きい」(12.0%)となった。なお「わからない」は、35.5%であった。

(2) 運動・スポーツをする際に必要な支援<P. 68>

全員に、運動やスポーツをするにあたって、必要だと思う支援についてたずねたところ、「会場までの送迎」(18.8%)が最も高く、次いで「障害にあわせたプログラムの充実」(18.2%)、「適切な指導者」(18.0%)となった。なお、「特にない」は、46.3%であった。

(3) スポーツ観戦する際の障壁<P. 70>

全員に、スポーツ観戦にあたって、障壁になっているものについてたずねたところ、「障壁はない」(20.6%)が最も高く、次いで「金銭的な余裕がない」(17.3%)、「交通手段・移動手段がない」(12.9%)となった。なお、「わからない」は、33.3%であった。

(4) スポーツ観戦する際に必要な支援<P. 72>

全員に、スポーツ観戦にあたって、必要だと思う支援についてたずねたところ、「会場までの送迎」(22.0%)が最も高く、次いで「スタジアム、アリーナなどの建物や設備のバリアフリー化」(20.0%)、「交通機関(電車やバス)やまちのバリアフリー化」(18.6%)となった。なお、「特にない」は、53.0%であった。

Ⅲ 調査結果の詳細

本章はアンケート調査票のうち、「問 1（7）」から「問 6（4）」についての結果を図表化のうえ、特徴点を記述したものである。

- 1 クロス集計結果のうち、（1）障害種別、（2）性別、（3）年代別、について、有意差検定（5％水準）を行った。
- 2 クロス集計結果のうち、（1）障害種別、（2）性別、（3）年代別、について、図表化を行った。
- 3 それらのうち、有意差があるものから、特徴的な部分について記述した。ただし、回答者が少なく、障害種別、性別、年代別でみた際に50サンプル未満となる区分が多い場合は、記述を省略することとした。
- 4 集計（図表の数値）は、小数点第2位を四捨五入しており、単数回答結果の数値の合計が100.0%にならない場合がある。
また上記と同様に、四捨五入により単数回答結果の数値を複数合計した値が、図表のものと同値にならない場合がある。
- 5 図表の「全体（2,696）」などは、該当する回答者数を表す。同様に小数点付き数値は、該当選択肢への回答率を表す。

※ 有意差検定とは、アンケート集計の結果から得られた2つの数値の差（例えば世代差）が偶然に生じたものかどうかを検証するための統計学的検定。

1 運動・スポーツの実施状況及び意識

(1) 平日の日中、過ごし方

問1 (7) 平日の日中、主にどこで過ごしましたか。

- ア 自分の家
- イ 職場（一般企業など）
- ウ 職場（福祉的就労（就労移行支援、就労継続支援A型・B型、就労定着支援）の施設）
- エ 学校
- オ 通所施設（生活介護、デイケアなど）
- カ 入所施設
- キ その他

《全体集計結果》

全員に、平日の日中、主にどこで過ごしているのかをたずねたところ、「自分の家」（54.5%）が最も高く、次いで「職場（一般企業など）」（21.5%）、「学校」（8.0%）となった。

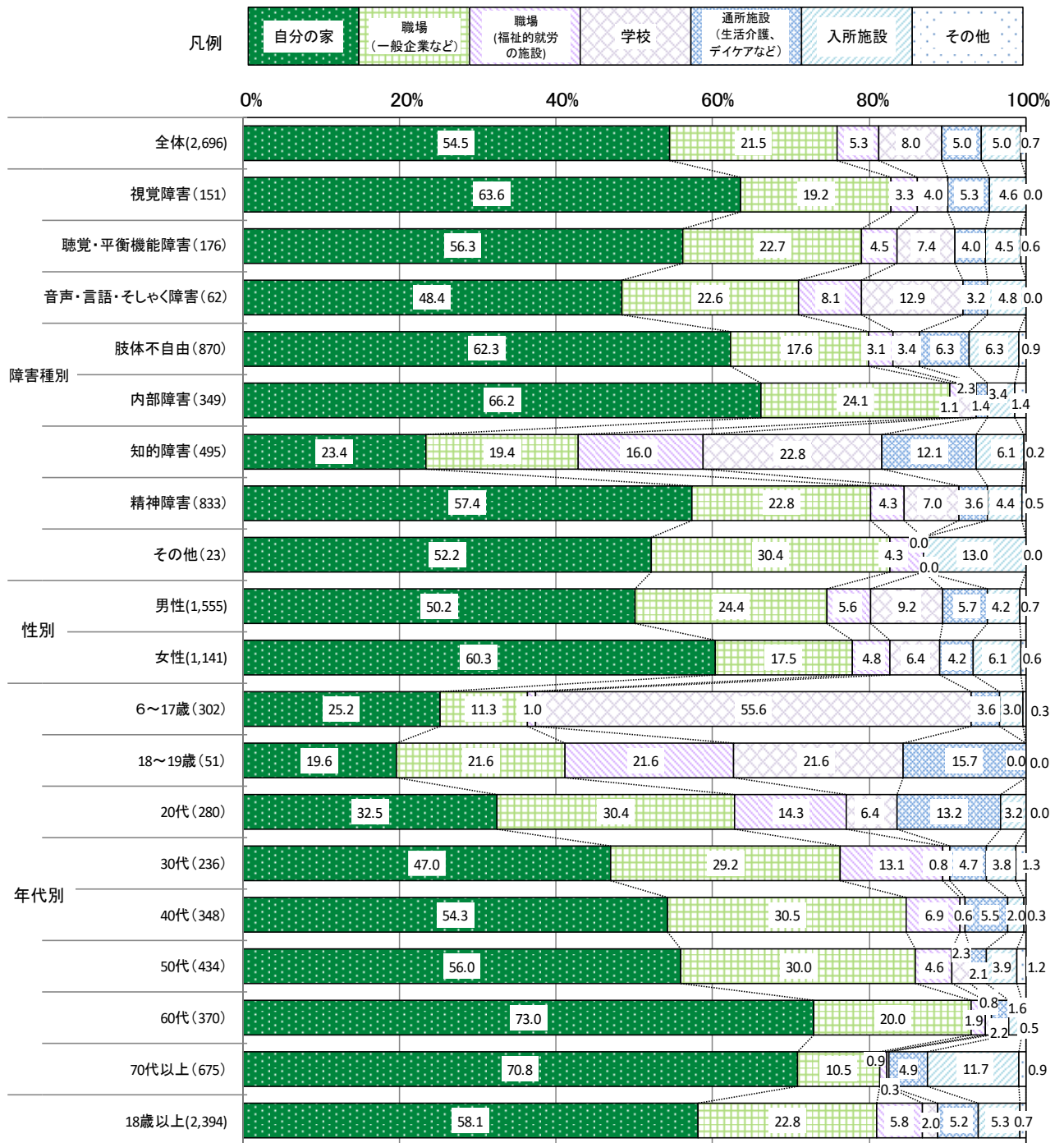
《属性別集計結果》

障害種別でみると、「自分の家」は、内部障害（66.2%）が知的障害（23.4%）、音声・言語・そしゃく障害（48.4%）、聴覚・平衡機能障害（56.3%）、精神障害（57.4%）に比べて高かった。

性別でみると、「自分の家」は、女性（60.3%）が男性（50.2%）に比べて高かった。

年代別でみると、「職場（福祉的就労（就労移行支援、就労継続支援A型・B型、就労定着支援）の施設）」は、18～19歳（21.6%）が70代以上（0.9%）、6～17歳（1.0%）、60代（1.9%）、50代（4.6%）、40代（6.9%）に比べて高かった。

【図表１－１：平日の日中、過ごし方／単一回答】



なお、「その他」への回答は、次のとおりであった。（代表的回答例）

- ・ 病院
- ・ 習い事
- ・ ジム

（２）運動・スポーツ関連情報ニーズ

問1 (8) 運動やスポーツに関してどのような情報が欲しいですか。(当てはまるものすべて)

- ア スポーツ行事やスポーツイベントの情報
イ 自分が参加できるスポーツ競技会の情報
ウ 高齢者や障害のある方が参加しやすいイベントや教室の情報
エ 各種スポーツ教室の案内
オ スポーツ施設の案内
カ 各種スポーツ指導者の紹介
キ 新しいスポーツ、気軽にできるスポーツなどの情報
ク クラブ・同好会などの活動案内
ケ 健康・体力づくり情報
コ スポーツに関する医学的・科学的情報
サ その他（ ）
シ 特になし

《全体集計結果》

全員に、運動やスポーツに関してどのような情報が欲しいかたずねたところ、「健康・体力づくり情報」(21.0%)が最も高く、次いで「高齢者や障害のある方が参加しやすいイベントや教室の情報」、「スポーツ行事やスポーツイベントの情報」(いずれも12.7%)となった。

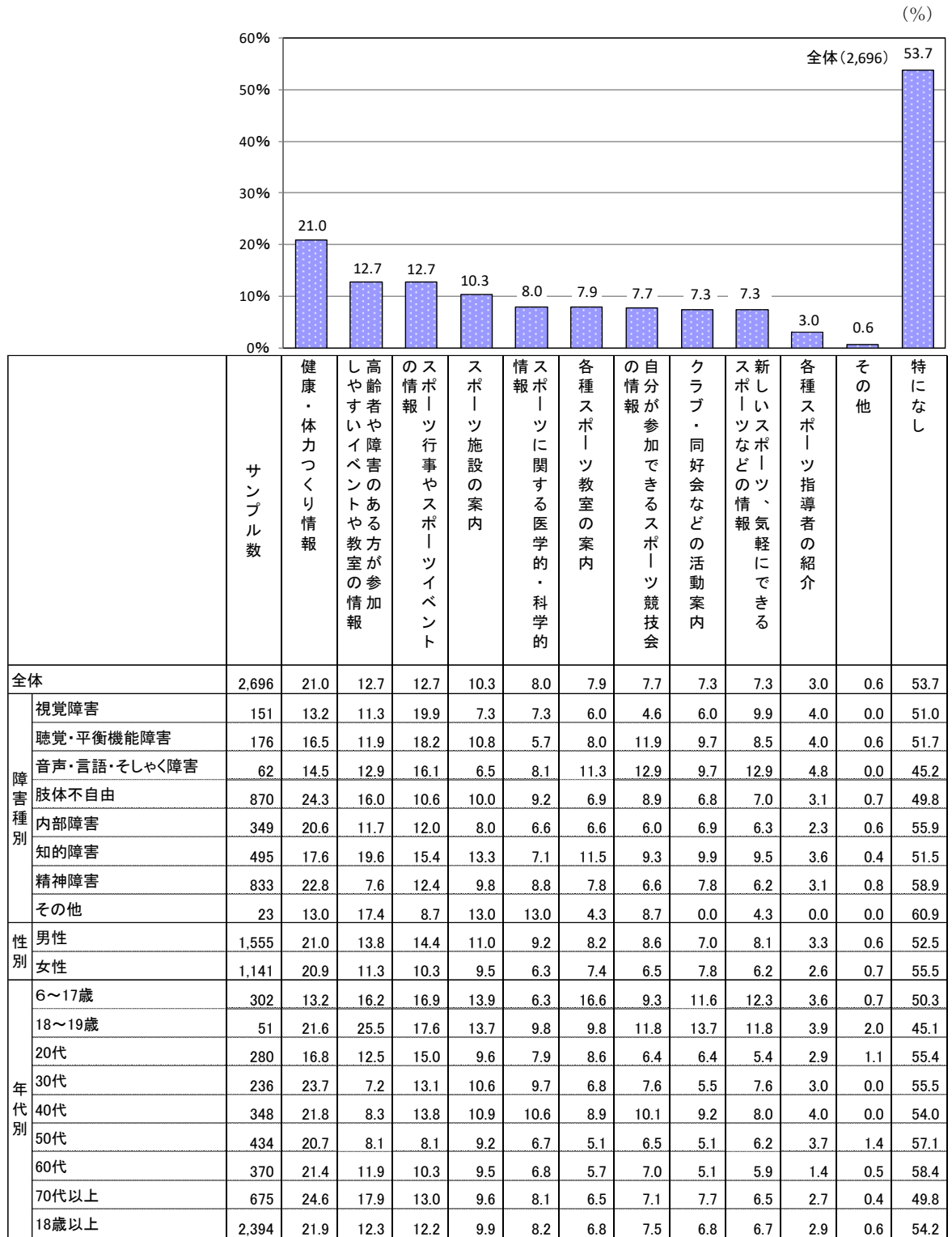
《属性別集計結果》

障害種別でみると、「自分が参加できるスポーツ競技会の情報」は、音声・言語・そしやく障害（12.9%）が、視覚障害（4.6%）に比べて高かった。

性別でみると、「スポーツ行事やスポーツイベントの情報」は、男性（14.4%）が女性（10.3%）に比べて高かった。

年代別でみると、「高齢者や障害のある方が参加しやすいイベントや教室の情報」は、18～19歳（25.5%）が30代（7.2%）に比べて高かった。

【図表１－２：運動・スポーツの関連情報ニーズ／複数回答】



なお、「その他」への回答は、次のとおりであった。（代表的回答例）

- ・ デイサービスでないリハビリ施設の情報
- ・ 障害に合った運動の情報と参加できる会の情報
- ・ 歩き方、身体の使い方の指導

（３）１年間にいった運動・スポーツの種目

問２（１） 学校の保健体育の授業以外で、この１年間に運動・スポーツは行いましたか。（当
てはまるものすべて）

- ア ウォーキング、散歩
（散策、ペットの散歩など）
- イ 体操
（ラジオ体操、職場体操、ストレッチ、エアロビクス、ヨガ、ピラティス、縄跳びなど）
- ウ 室内運動器具
（ウエイト器具、ランニングマシン、バランスボールなど）を用いる運動
- エ 陸上競技
（ランニング、ジョギングなどの軽い運動も含む）
- オ 水泳・遊泳
（水中歩行・水中運動）
- カ 球技
（下記の選択肢タ～ニの球技を除く）
- キ ダンス
（フォークダンス、ジャズダンス、社交ダンス、フラダンス、バレエ、民謡踊りなど）
- ク 格闘技
（ボクシング、レスリング、相撲など）
- ケ 武道
（柔道、剣道、空手、合気道など）
- コ 射的
（弓道、アーチェリー、ダーツ、スポーツ吹矢など）
- サ ウィンタースポーツ
（スキー、スノーボード、スケートなど）
- シ ウォータースポーツ
（ボート、ヨット、スキューバダイビング、スノーバダイビング、カヌー、水上バイク、
サーフィン、ウィンドサーフィン、ボディボード、ボードセーリングなど）
- ス スカイスポーツ
（ハングライダー、パラグライダー、スカイダイビングなど）
- セ アウトドアスポーツ
（ハイキング、ワンダーフォーゲル、釣り、登山、キャンプなど）
- ソ サイクリング、モーター（サイクル）スポーツ
- タ ブラインドサッカー
- チ 車いすテニス
- ツ サウンドテーブルテニス
- テ シットティングバレーボール
- ト 車いすバスケットボール
- ナ 車いすラグビー
- ニ ボッチャ
- ヌ 運動あそび（鬼ごっこ、かくれんぼ、鉄棒、ぶらんこなど）
- ネ その他（ ）
- ノ 特にない → 問２（９）へ進む

《全体集計結果》

全員に、学校の保健体育の授業以外で、この１年間に運動・スポーツを行ったかたずねたところ、「ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩など）」（41.4%）が最も高く、次いで「体操（ラジオ体操、職場体操、ストレッチ、エアロビクス、ヨガ、ピラティス、縄跳びなど）」（14.8%）、「室内運動器具（ウエイト器具、ランニングマシン、バランスボールなど）を用いる運動」（10.1%）となった。なお、「特にない」は、42.9%であった。

《属性別集計結果》

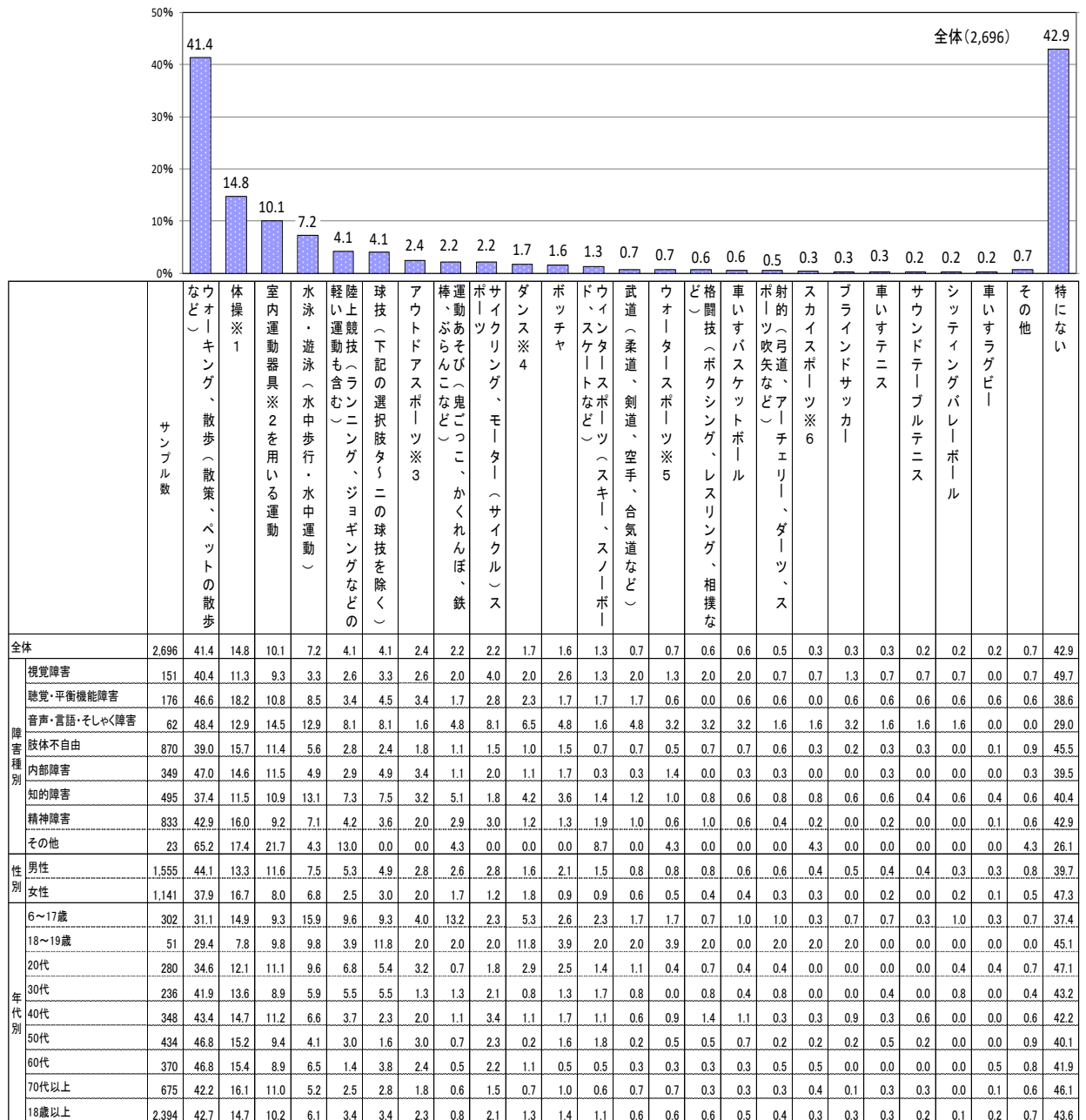
障害種別でみると、「ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩など）」は、内部障害（47.0%）が知的障害（37.4%）、肢体不自由（39.0%）に比べて高かった。

性別でみると、「ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩など）」は、男性（44.1%）が女性（37.9%）に比べて高かった。

年代別でみると、「水泳・遊泳（水中歩行・水中運動）」は、6～17歳（15.9%）が20代以上の各年代に比べて高かった。

【図表 1－3：1 年間に行った運動・スポーツ種目／複数回答】

(%)



※1 ラジオ体操、職場体操、ストレッチ、エアロビクス、ヨガ、ピラティス、縄跳びなど

※2 ウェイト器具、ランニングマシン、バランスボールなど

※3 ハイキング、ワンダーフォーゲル、釣り、登山、キャンプなど

※4 フォークダンス、ジャズダンス、社交ダンス、フラダンス、バレエ、民謡踊りなど

※5 ボート、ヨット、スキndaイビング、スクーバダイビング、カヌー、水上バイク、サーフィン、ウィンドサーフィン
ボディボード、ボードセーリングなど

※6 ハングライダー、パラグライダー、スカイダイビングなど

なお、「その他」への回答は、次のとおりであった。（代表的回答例）

- ・ ゴルフ
- ・ テニス
- ・ 卓球

（４）１年間に行った運動・スポーツの日数

問２（２） 学校の保健体育の授業以外で、この１年間にどのくらいの頻度で運動やスポーツを行いましたか。

- ア 週３日以上（年151日以上）
- イ 週２日程度（年101日～150日）
- ウ 週１日程度（年51日～100日）
- エ 月に１～３日程度（年12日～50日）
- オ ３か月に１，２日程度（年４日～11日）
- カ 年に１～３日程度
- キ わからない

《全体集計結果》

〔問２（１）〕で、いずれかの運動・スポーツを行った人（1,539人）にこの１年間で運動・スポーツをどの程度行ったかたずねたところ、「週３日以上（年151日以上）」（23.7％）が最も高く、次いで「週１日程度（年51日～100日）」（22.2％）、「週２日程度（年101日～150日）」（15.4％）となった。

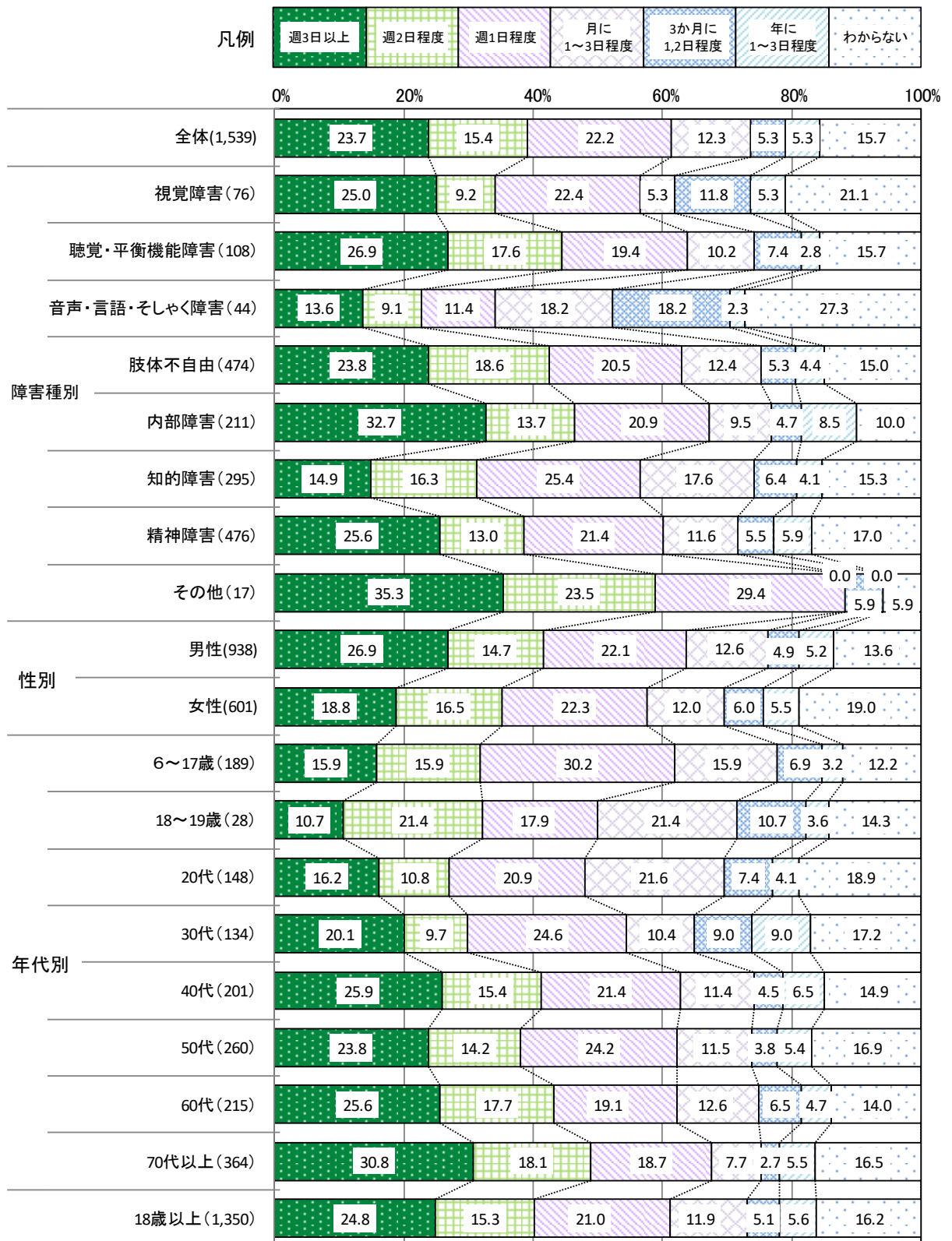
《属性別集計結果》

障害種別でみると、「週３日以上（年151日以上）」は、内部障害（32.7％）が音声・言語・そしゃく障害（13.6％）、知的障害（14.9％）、肢体不自由（23.8％）に比べて高かった。

性別でみると、「週３日以上（年151日以上）」は、男性（26.9％）が、女性（18.8％）に比べて高かった。

年代別でみると、「週３日以上（年151日以上）」は、70代以上（30.8％）が、18～19歳（10.7％）、6～17歳（15.9％）、20代（16.2％）、30代（20.1％）に比べて高かった。

【図表１－４：１年間に行った運動・スポーツの日数／単一回答】



【参考図表】

この1年間に運動・スポーツを行わなかった層を含めて、全体からみたスポーツ実施日数は次のとおりであった。

《全体集計結果》

この1年間にどのくらいの頻度で運動やスポーツを行ったかたずねたところ、「していない」(42.9%)が最も高く、次いで「週3日以上(年151日以上)」(13.5%)、「週1日程度(年51日～100日)」(12.6%)、「週2日程度(年101日～150日)」(8.8%)となった。

《週1日以上》運動・スポーツを行った人の割合は、35.0%であった。また、18歳以上は34.5%、6～17歳は38.7%であった。

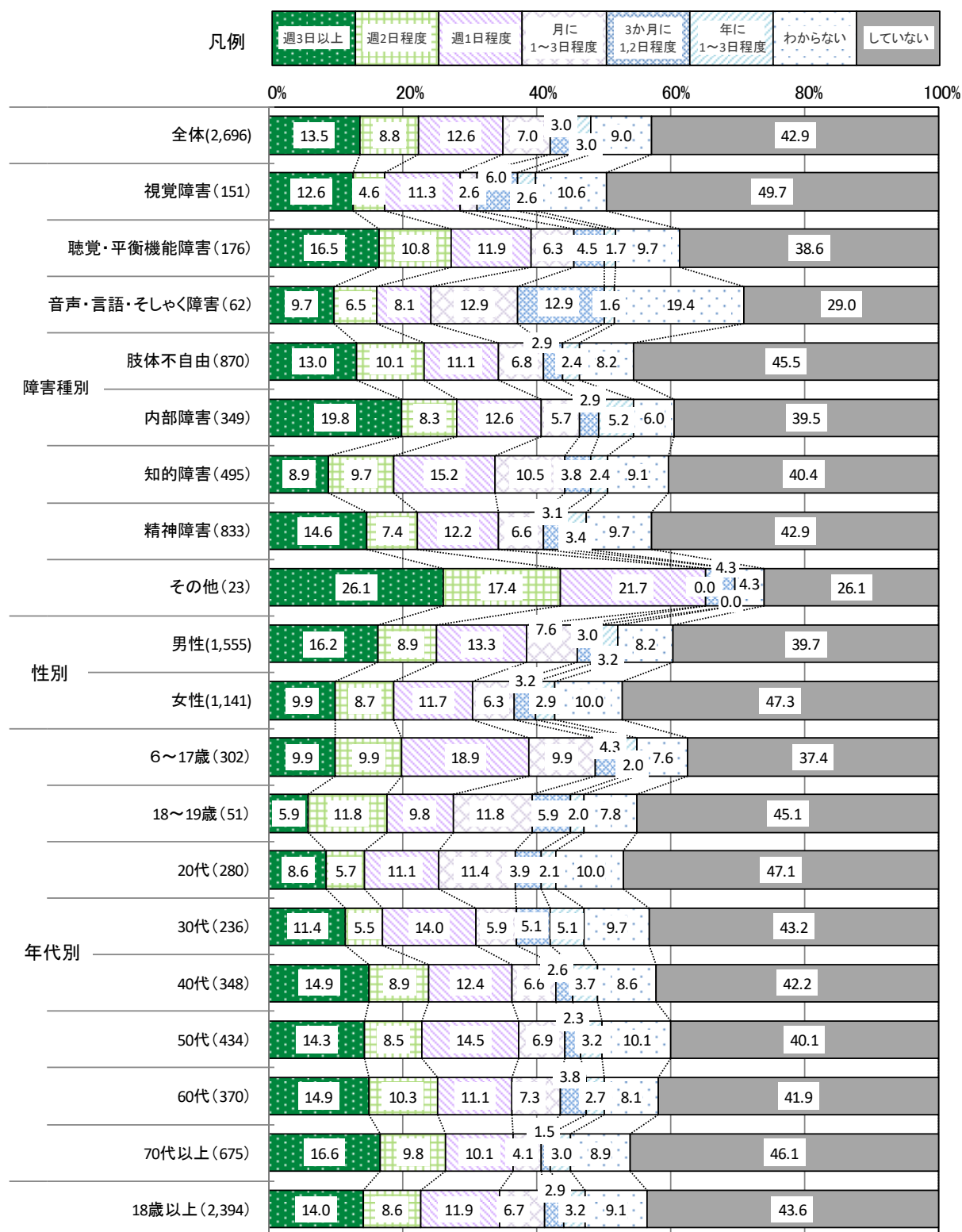
《属性別集計結果》 (障害種別/性別/年代別)

障害種別でみると、「週3日以上(年151日以上)」は、内部障害(19.8%)が知的障害(8.9%)、肢体不自由(13.0%)、精神障害(14.6%)に比べて高かった。

性別でみると、統計的に有意な差はなかった。

年代別でみると、「週3日以上(年151日以上)」は、70代以上(16.6%)が18～19歳(5.9%)、20代(8.6%)、6～17歳(9.9%)に比べて高かった。

【参考図表：1年間に行った運動・スポーツの日数（「スポーツを行わなかった」層を含む）
/単一回答】（障害種別/性別/年代別）



（５）運動・スポーツを行っている場所

問２（３） 運動・スポーツを行っている場所はどこですか。（当てはまるものすべて）

- ア 自宅
- イ 道路や遊歩道
- ウ 広場や公園
- エ 民間のスポーツ施設
- オ 公共のスポーツ施設（障害者専用施設）
- カ 公共のスポーツ施設（障害者専用施設以外）
- キ 小中高校の体育施設
- ク 特別支援学校の体育施設
- ケ 職場のスポーツ施設
- コ 福祉施設
- サ 児童通所サービス（放課後等デイサービス等）
- シ 医療機関（病院やリハビリ施設）
- ス 山・川・海
- セ その他（ ）
- ソ わからない

《全体集計結果》

〔問２（１）〕で、いずれかの運動・スポーツを行った人（1,539人）に、運動・スポーツを行っている場所についてたずねたところ、「道路や遊歩道」（43.1%）が最も高く、次いで「自宅」（36.1%）、「広場や公園」（25.9%）となった。

《属性別集計結果》

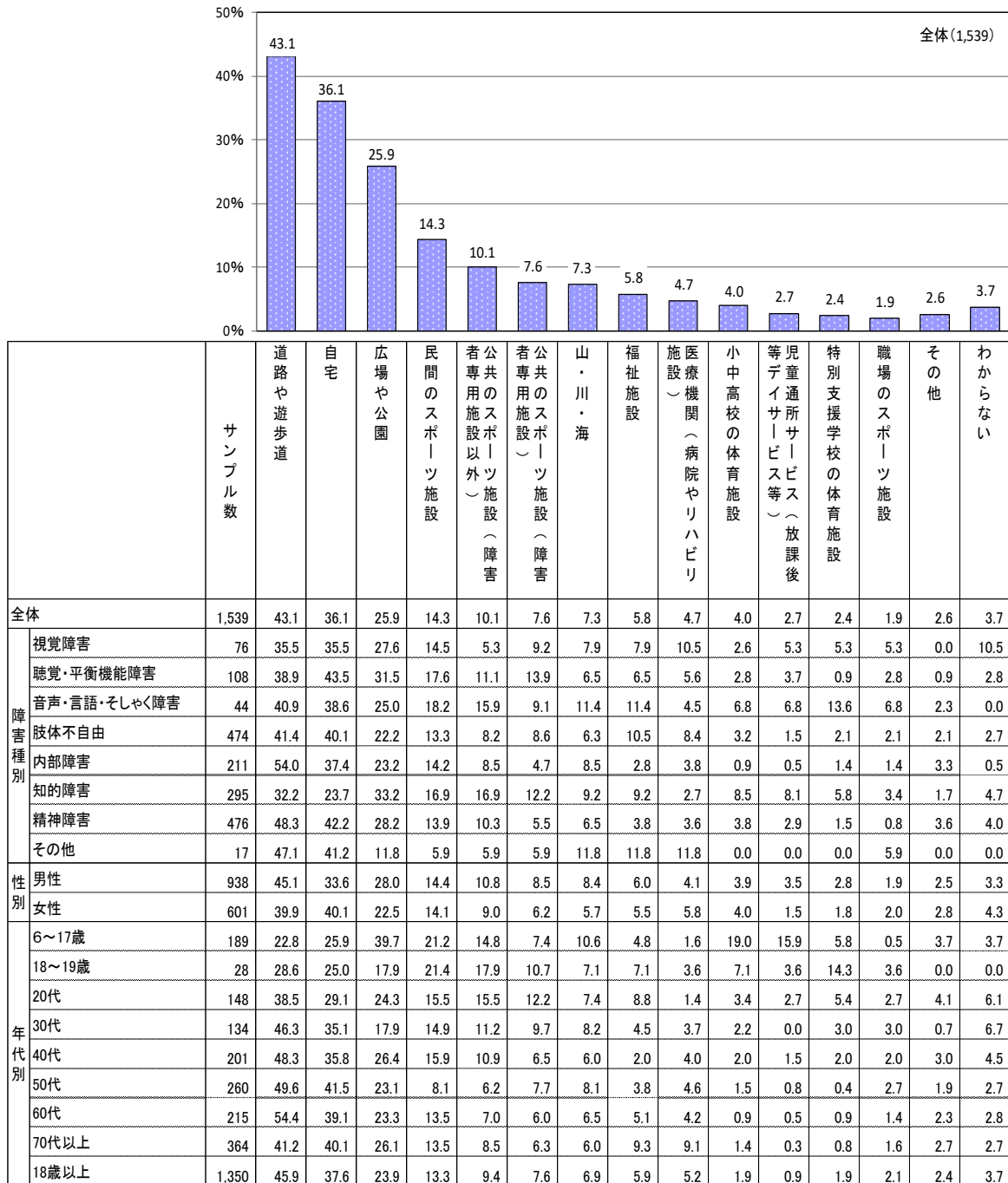
障害種別でみると、「道路や遊歩道」は、内部障害（54.0%）が知的障害（32.2%）、視覚障害（35.5%）、聴覚・平衡機能障害（38.9%）、肢体不自由（41.4%）に比べて高かった。

性別でみると、「道路や遊歩道」は、男性（45.1%）が、女性（39.9%）に比べて高かった。また、「自宅」は、女性（40.1%）が男性（33.6%）に比べて高かった。

年代別でみると、「広場や公園」は、6～17歳（39.7%）が他の年代と比べて最も高かった。

【図表１－５：運動・スポーツを行っている場所／複数回答】

(%)



なお、「その他」への回答は、次のとおりであった。（代表的回答例）

- ・ ゴルフ場
- ・ 職場での朝の体操
- ・ 普通のジム

(6) 運動・スポーツを一緒にする人

問2 (4) 運動・スポーツを一緒にするのは誰ですか。(当てはまるものすべて)

- ア 一人
イ 家族
ウ 福祉施設の職員・仲間
エ スポーツ教室の指導者・仲間
オ 地域の公共スポーツ施設の職員・仲間
カ 障害者専用スポーツ施設の職員・仲間
キ 障害がある人のサークル・障害者スポーツサークル等の仲間
ク 障害がある人やない人など様々な人がいるサークルの仲間
ケ ボランティアの人たち
コ 学校の先生や学校の友達
サ 児童通所サービス（放課後等デイサービス等）の職員・仲間
シ その他の友人・知人
ス その他（ ）
セ わからない

《全体集計結果》

〔問2（1）〕で、いずれかの運動・スポーツを行った人（1,539人）に、運動・スポーツを一緒にするのは誰かたずねたところ、「一人」（53.7%）が最も高く、次いで「家族」（30.8%）、「福祉施設の職員・仲間」（9.9%）となった。

《属性別集計結果》

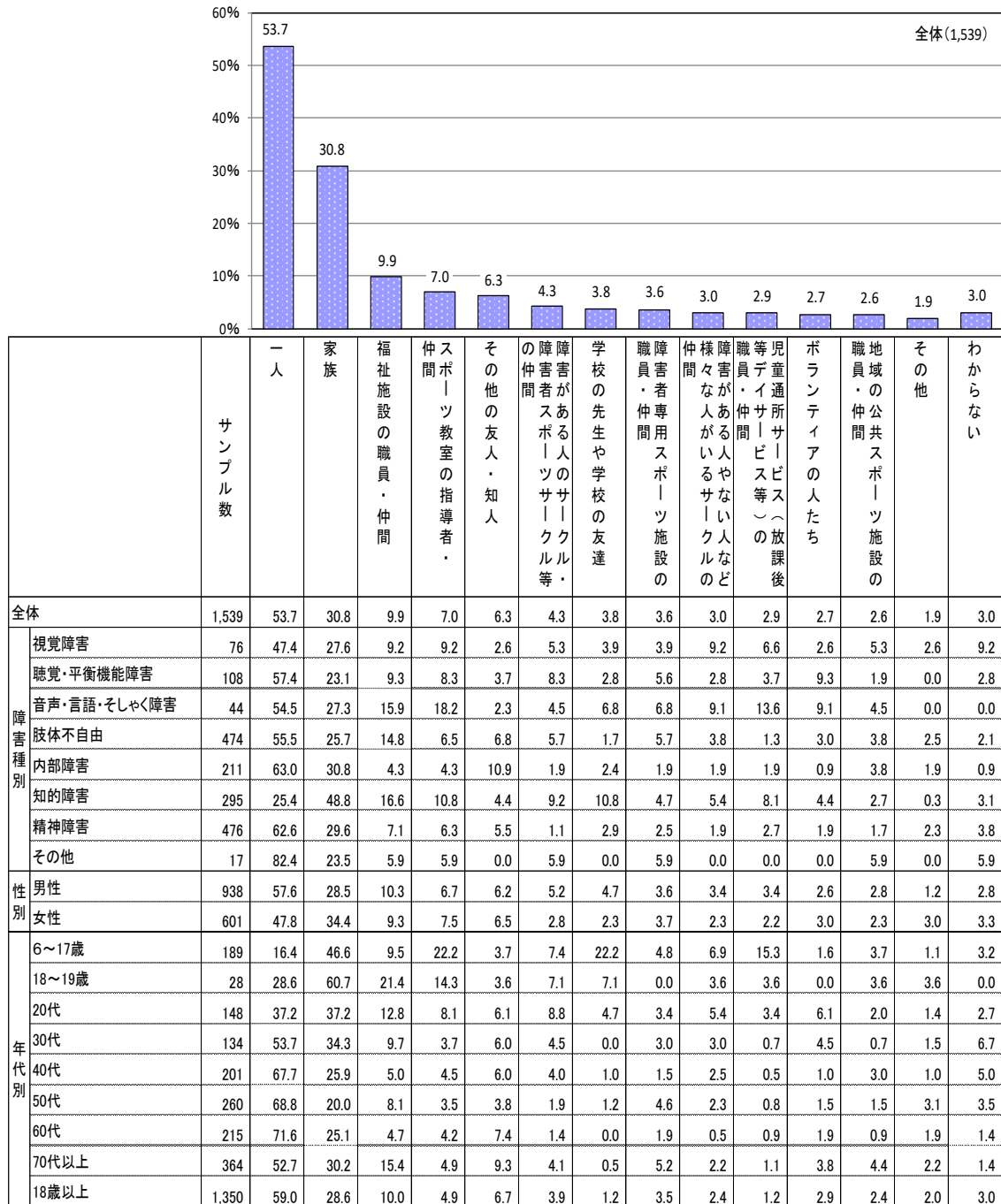
障害種別でみると、「家族」は、知的障害（48.8%）が他の障害種別を大きく上回った。

性別でみると、「一人」は、男性（57.6%）が、女性（47.8%）に比べて高かった。

年代別でみると、「家族」は、6～17歳（46.6%）が、20代以上に比べて高かった。

【図表１－６：運動・スポーツを一緒にする人／複数回答】

(%)



なお、「その他」への回答は、次のとおりであった。（代表的回答例）

- ・ パートナー
- ・ ペット
- ・ 職場の人

（７）運動・スポーツをする理由

問２（５） 運動・スポーツをする理由は何ですか。（当てはまるものすべて）

- ア 健康・体力づくりのため
- イ 楽しみ、気晴らしのため
- ウ 運動不足の解消のため
- エ 精神の修養や訓練のため（心をきたえるため）
- オ 自己の記録や能力を向上させるため
- カ 家族の触れ合いのため
- キ 友人、仲間との交流のため
- ク 美容や肥満解消（ダイエット）のため
- ケ リハビリテーションや医療・治療のため
- コ 障害者スポーツ大会に参加するため
- サ その他（ ）

《全体集計結果》

[問２（１）]で、いずれかの運動・スポーツを行った人（1,539人）に、運動・スポーツをする理由をたずねたところ、「健康・体力づくりのため」（69.3%）が最も高く、次いで「運動不足の解消のため」（52.4%）、「楽しみ、気晴らしのため」（41.1%）となった。

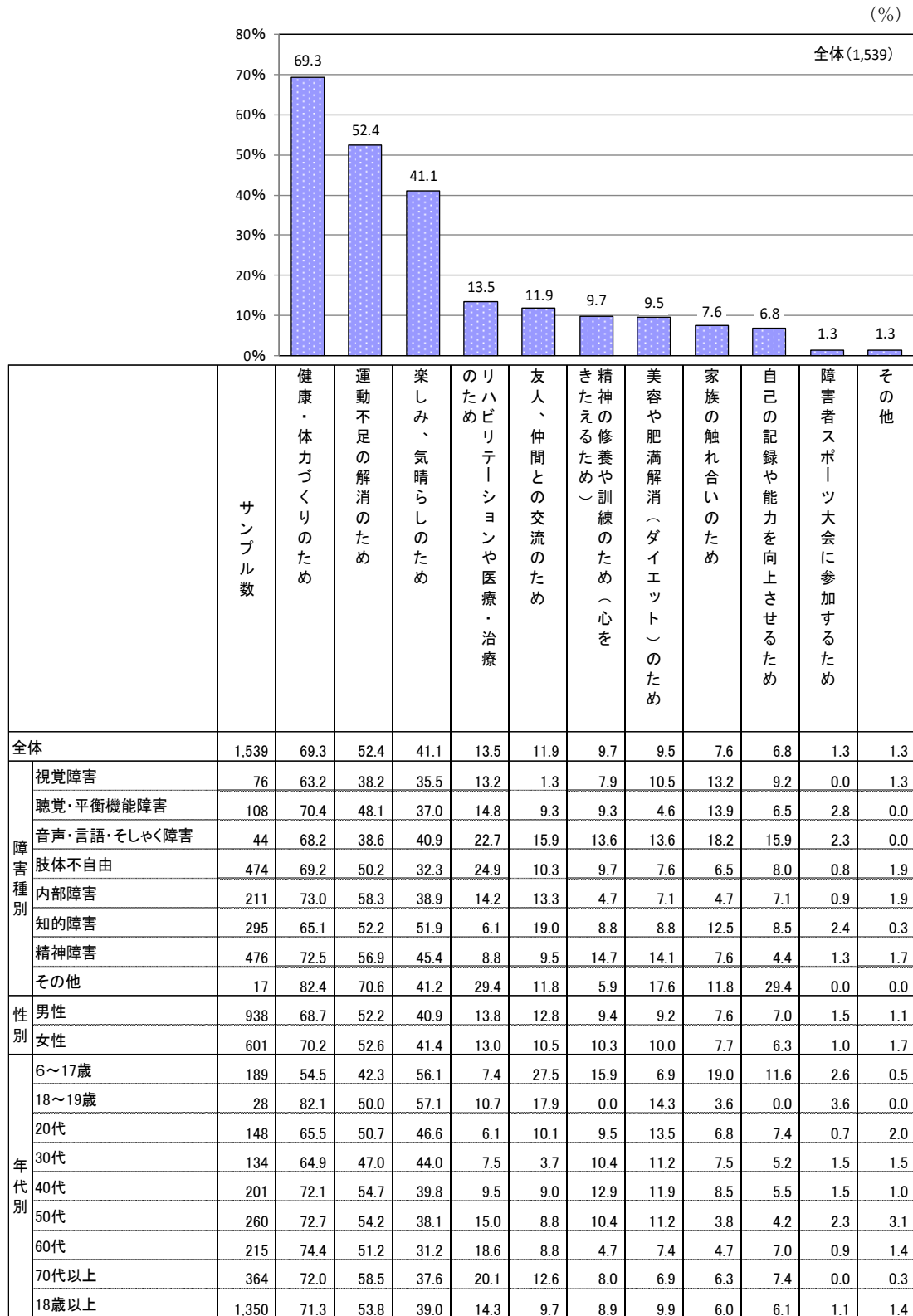
《属性別集計結果》

障害種別でみると、「楽しみ、気晴らしのため」は、知的障害（51.9%）が、肢体不自由（32.3%）、視覚障害（35.5%）、聴覚・平衡機能障害（37.0%）、内部障害（38.9%）に比べて高かった。

性別でみると、統計的に有意な差はなかった。

年代別でみると、「運動不足の解消のため」は、70代以上（58.5%）が、6～17歳（42.3%）、30代（47.0%） に比べて高かった。

【図表１－７：運動・スポーツをする理由／複数回答】



なお、「その他」への回答は、次のとおりであった。（代表的回答例）

- ・ ペットとの散歩
- ・ 障害を治すリハビリ

（８）運動・スポーツを始めたきっかけ

問２（６） 運動・スポーツを始めたきっかけは何ですか。（当てはまるものすべて）

- ア 家族に奨められた
- イ 障害のある（友人・知人・同僚）に奨められた
- ウ 障害のない（友人・知人・同僚）に奨められた
- エ 医師に奨められた
- オ 作業療法士（ＯＴ）・理学療法士（ＰＴ）・看護師等の医療従事者に奨められた
- カ 学校の先生に奨められた
- キ 所属する団体（会社等）に奨められた
- ク スポーツ団体等の関係者から誘われた
- ケ 有名選手・パラリンピアンの影響
- コ テレビや新聞、インターネット等の影響
- サ 漫画、ドラマ、映画等の影響
- シ 現地やテレビ等でそのスポーツを観た
- ス その他（ ）
- セ 特に理由はない・なんとなく

《全体集計結果》

〔問２（１）〕で、いずれかの運動・スポーツを行った人（1,539人）に、運動・スポーツを始めたきっかけをたずねたところ、「家族に奨められた」（23.9％）が最も高く、次いで「医師に奨められた」（19.9％）、「作業療法士（ＯＴ）・理学療法士（ＰＴ）・看護師等の医療従事者に奨められた」（11.2％）となった。

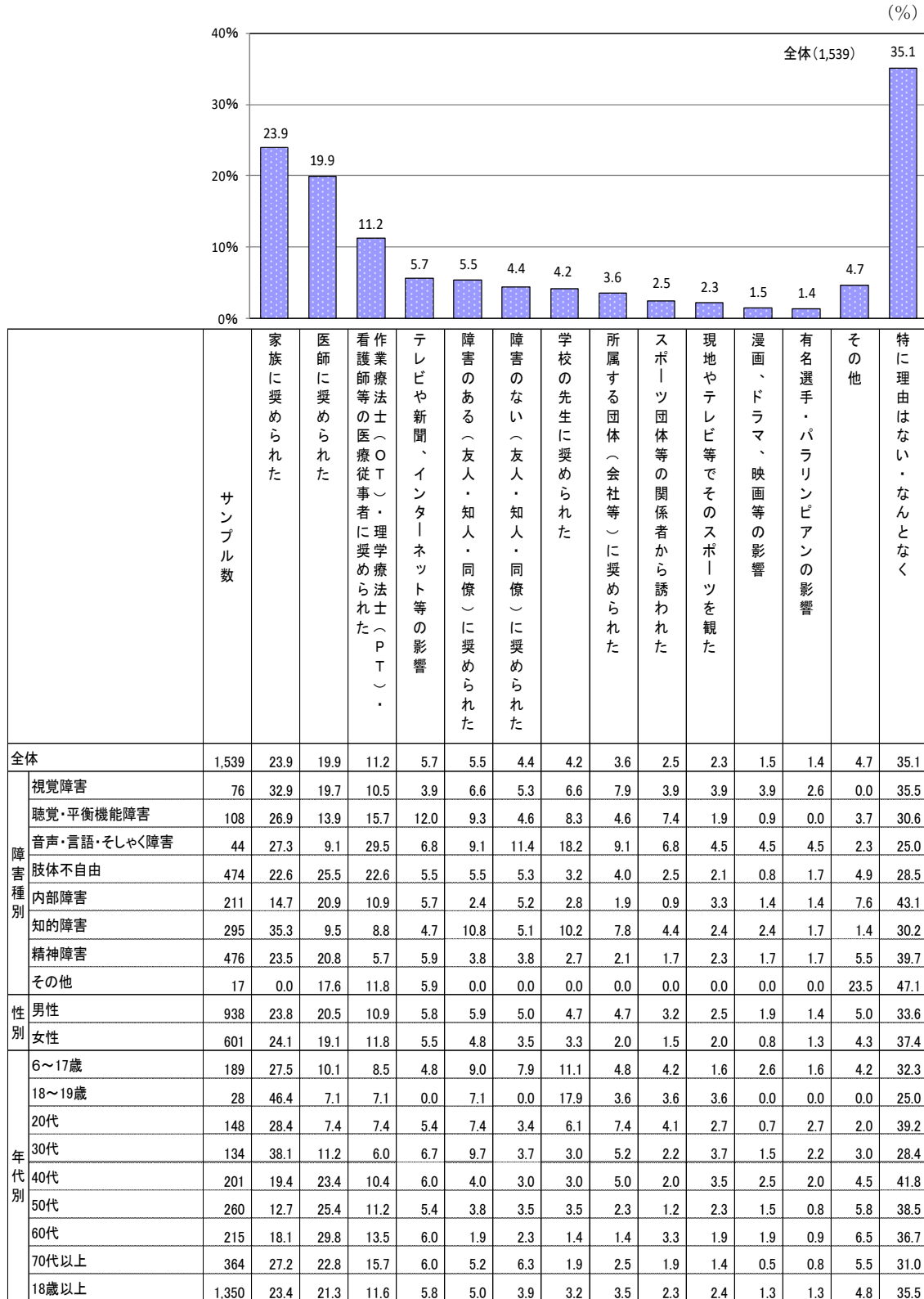
《属性別集計結果》

障害種別でみると、「作業療法士（ＯＴ）・理学療法士（ＰＴ）・看護師等の医療従事者に奨められた」は、音声・言語・そしゃく障害（29.5％）、肢体不自由（22.6％）が、精神障害（5.7％）、知的障害（8.8％）、視覚障害（10.5％）、内部障害（10.9％）に比べて高かった。

性別でみると、「所属する団体（会社等）に奨められた」は、男性（4.7％）が、女性（2.0％）に比べて高かった。

年代別でみると、「医師に奨められた」は、60代（29.8％）、50代（25.4％）が30代以下に比べて高かった。

【図表１－８：運動・スポーツを始めたきっかけ／複数回答】



なお、「その他」への回答は、次のとおりであった。（代表的回答例）

- ・ 自発的に始めた
- ・ 障害を発症する以前から行っていた
- ・ コロナ禍で体重が増えて減らしたかったから

（９）今後（も）行いたい運動・スポーツ

問２（７） 今後（も）行いたいと思う運動・スポーツはありますか。（当てはまるものすべて）

- ア ウォーキング、散歩
（散策、ペットの散歩など）
- イ 体操
（ラジオ体操、職場体操、ストレッチ、エアロビクス、ヨガ、ピラティス、縄跳びなど）
- ウ 室内運動器具
（ウエイト器具、ランニングマシン、バランスボールなど）を用いる運動
- エ 陸上競技
（ランニング、ジョギングなどの軽い運動も含む）
- オ 水泳・遊泳
（水中歩行・水中運動）
- カ 球技
（下記の選択肢タ～ニの球技を除く）
- キ ダンス
（フォークダンス、ジャズダンス、社交ダンス、フラダンス、バレエ、民謡踊りなど）
- ク 格闘技
（ボクシング、レスリング、相撲など）
- ケ 武道
（柔道、剣道、空手、合気道など）
- コ 射的
（弓道、アーチェリー、ダーツ、スポーツ吹矢など）
- サ ウィンタースポーツ
（スキー、スノーボード、スケートなど）
- シ ウォータースポーツ
（ボート、ヨット、スキndaイビング、スクーバダイビング、カヌー、
水上バイク、サーフィン、ウィンドサーフィン、ボディボード、ボードセーリングなど）
- ス スカイスポーツ
（ハングライダー、パラグライダー、スカイダイビングなど）
- セ アウトドアスポーツ
（ハイキング、ワンダーフォーゲル、釣り、登山、キャンプなど）
- ソ サイクリング、モーター（サイクル）スポーツ
- タ ブラインドサッカー
- チ 車いすテニス
- ツ サウンドテーブルテニス
- テ シッティングバレーボール
- ト 車いすバスケットボール
- ナ 車いすラグビー
- ニ ボッチャ
- ヌ 運動あそび（鬼ごっこ、かくれんぼ、鉄棒、ぶらんこなど）
- ネ その他（ ）
- ノ 特にない

《全体集計結果》

〔問２（１）〕で、いずれかの運動・スポーツを行った人（1,539人）に、今後（も）行いたいと思う運動・スポーツについてたずねたところ、「ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩など）」（70.1%）が最も高く、次いで「体操（ラジオ体操、職場体操、ストレッチ、エアロビクス、ヨガ、ピラティス、縄跳びなど）」（29.6%）、「室内運動器具（ウエイト器具、ランニングマシン、バランスボールなど）を用いる運動」（23.7%）となった。

《属性別集計結果》

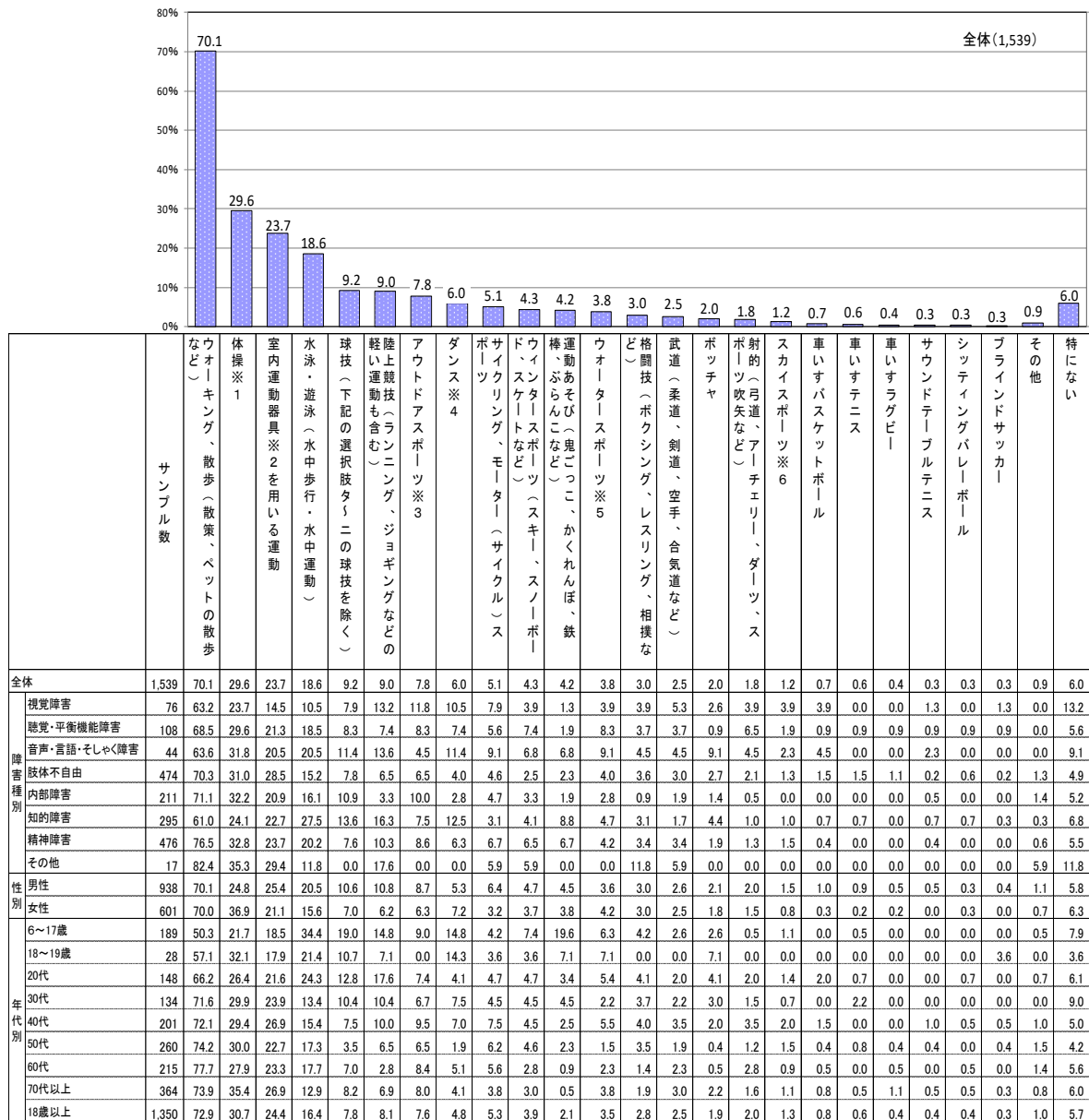
障害種別でみると、「ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩など）」は、精神障害（76.5%）が、知的障害（61.0%）、視覚障害（63.2%）、肢体不自由（70.3%）に比べて高かった。

性別でみると、「体操（ラジオ体操、職場体操、ストレッチ、エアロビクス、ヨガ、ピラティス、縄跳びなど）」は、女性（36.9%）が男性（24.8%）に比べて高く、「水泳・遊泳（水中歩行・水中運動）」は、男性（20.5%）が女性（15.6%）に比べて高かった。

年代別でみると、「水泳・遊泳（水中歩行・水中運動）」は、6～17歳（34.4%）が20代以上に比べて高かった。

【図表１－９：今後（も）行いたい運動・スポーツ／複数回答】

(%)



- ※１ ラジオ体操、職場体操、ストレッチ、エアロビクス、ヨガ、ピラティス、縄跳びなど
 ※２ ウェイト器具、ランニングマシン、バランスボールなど
 ※３ ハイキング、ワンダーフォーゲル、釣り、登山、キャンプなど
 ※４ フォークダンス、ジャズダンス、社交ダンス、フラダンス、バレエ、民謡踊りなど
 ※５ ボート、ヨット、スキューバダイビング、スクーバダイビング、カヌー、水上バイク、サーフィン、ウィンドサーフィ
 ン、ボディボード、ボードセーリングなど
 ※６ ハングライダー、パラグライダー、スカイダイビングなど

なお、「その他」への回答は、次のとおりであった。（代表的回答例）

- ・ ゴルフ
- ・ 卓球
- ・ テニス

(10) スポーツクラブ・サークルについて

問2 (8) スポーツクラブやサークルに所属していますか。

- ア 総合型地域スポーツクラブに所属している
- イ 地域住民が中心となったクラブ・同好会・サークル（総合型地域スポーツクラブ以外）に所属している
- ウ 民間の会員制スポーツクラブやフィットネスクラブに所属している
- エ 学校のOB・OGなどが中心となったクラブ・同好会・サークルに所属している
- オ 学校の運動部・クラブ・サークル（在校生のみ）に所属している
- カ 職場の仲間を中心としたクラブ・同好会・サークルに所属している
- キ 友人・知人が中心のクラブ・同好会・サークルに所属している
- ク 障害者優先施設でのクラブ・サークル活動に所属している
- ケ その他（ ）に所属している
- コ 所属していない

《全体集計結果》

[問2 (1)]で、いずれかの運動・スポーツを行った人(1,539人)に、スポーツクラブやサークルに所属しているかたずねたところ、「民間の会員制スポーツクラブやフィットネスクラブに所属している」(5.6%)が最も高く、次いで「友人・知人が中心のクラブ・同好会・サークルに所属している」(4.9%)、「地域住民が中心となったクラブ・同好会・サークル（総合型地域スポーツクラブ以外）に所属している」(4.5%)となった。なお、「所属していない」は、76.4%であった。

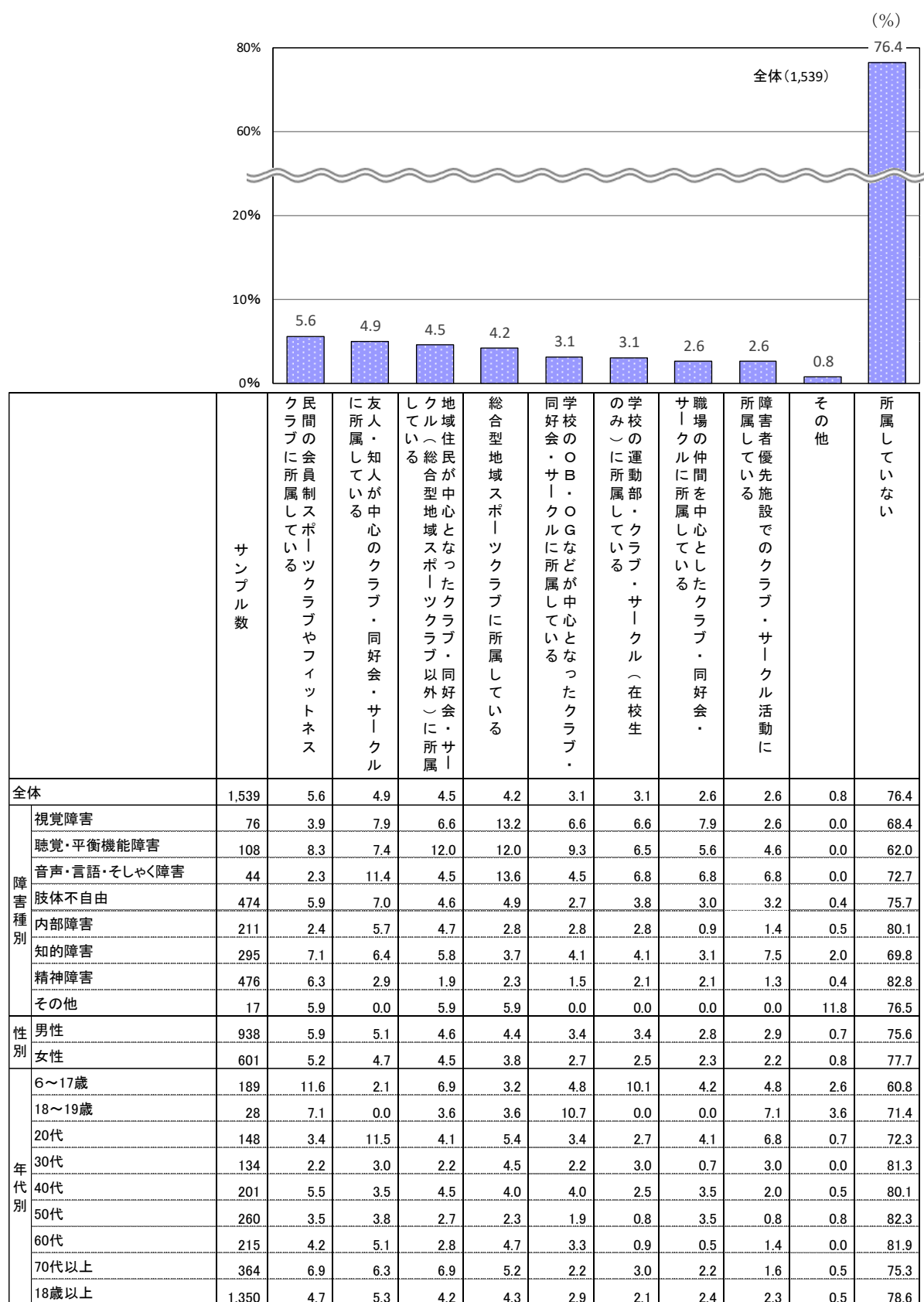
《属性別集計結果》

障害種別でみると、「地域住民が中心となったクラブ・同好会・サークル（総合型地域スポーツクラブ以外）に所属している」は、聴覚・平衡機能障害(12.0%)が精神障害(1.9%)、肢体不自由(4.6%)、内部障害(4.7%)、知的障害(5.8%)に比べて高かった。

性別でみると、統計的に有意な差はなかった。

年代別でみると、「民間の会員制スポーツクラブやフィットネスクラブに所属している」は、6～17歳(11.6%)が20代～60代の各年代に比べて高かった。

【図表 1-10：スポーツクラブ・サークルについて／複数回答】



なお、「その他」への回答は、次のとおりであった。（代表的回答例）

- ・ 乗馬クラブ
- ・ スポーツ少年団
- ・ ダンス

（11）運動・スポーツを行わなかった理由

問 2（9） （（1）がノの方向け）運動やスポーツを行っていないのは、なぜですか。（当てはまるものすべて）

- ア 活動したいが、身体的にできない
- イ 活動したいが、身近なところに運動やスポーツができる場所がない
- ウ 活動したいが、運動やスポーツができる場所への移動手段がない
- エ 活動したいが、自分に合った運動やスポーツの情報がない
- オ 活動したいが、一緒にできる人がいない
- カ 活動したいが、時間がない
- キ 活動したいが、必要な競技用具や補助具がない
- ク その他（ ）
- ケ 活動したいと思わない

ア～ク → 問 2（11）へ進む

《全体集計結果》

〔問 2（1）〕で、いずれかの運動・スポーツを行っていない人（1,157人）に、運動やスポーツを行っていない理由をたずねたところ、「活動したいが、身体的にできない」（16.7%）が最も高く、次いで「活動したいが、時間がない」（6.2%）、「活動したいが、自分に合った運動やスポーツの情報がない」（5.1%）となった。なお、「活動したいと思わない」は68.5%であった。

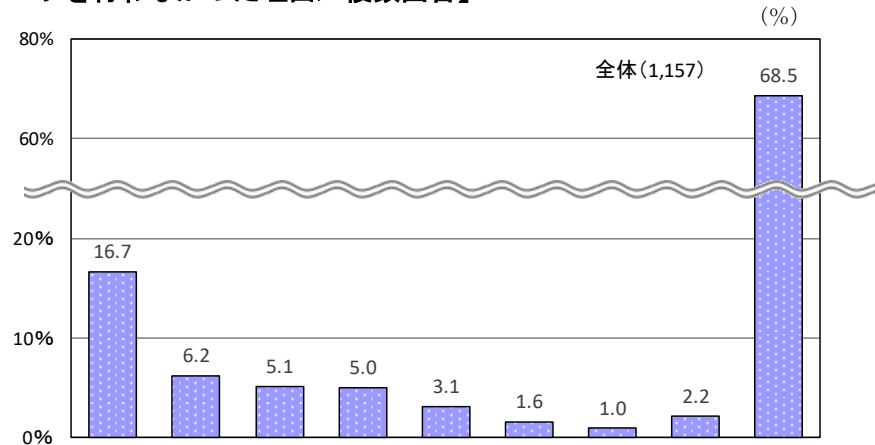
《属性別集計結果》

障害種別でみると、「活動したいが、身体的にできない」は、肢体不自由（34.1%）が、精神障害（6.4%）、聴覚・平衡機能障害（8.8%）、知的障害（11.5%）、視覚障害（14.7%）、内部障害（22.5%）に比べて高かった。また、「活動したいと思わない」は、精神障害（78.7%）が最も高かった。

性別でみると、統計的に有意な差はなかった。

年代別でみると、「活動したいが、身体的にできない」は、70代以上（25.7%）が、30代（6.9%）、6～17歳（8.0%）、20代（11.4%）、40代（14.3%）、50代（16.1%）に比べて高かった。

【図表 1-11：運動・スポーツを行わなかった理由／複数回答】



		サンプル数	活動したいが、身体的にできない	活動したいが、時間がない	や活動したいが、自分が合った運動	活動したいが、一緒にできる人がいない	や活動したいが、身近なところに運動	活動したいが、移動手段がない	補助具がないが、必要な競技用具や	その他	活動したいと思わない
全体		1,157	16.7	6.2	5.1	5.0	3.1	1.6	1.0	2.2	68.5
障害種別	視覚障害	75	14.7	4.0	1.3	0.0	1.3	1.3	0.0	0.0	77.3
	聴覚・平衡機能障害	68	8.8	10.3	4.4	4.4	1.5	1.5	1.5	2.9	76.5
	音声・言語・そしゃく障害	18	33.3	16.7	5.6	5.6	0.0	0.0	5.6	0.0	44.4
	肢体不自由	396	34.1	4.5	6.1	3.8	4.0	2.3	0.8	1.8	55.1
	内部障害	138	22.5	5.8	2.9	3.6	2.2	0.7	1.4	3.6	63.0
	知的障害	200	11.5	10.0	8.0	7.5	5.5	1.0	1.0	4.0	64.5
	精神障害	357	6.4	6.2	5.0	5.9	2.2	1.7	1.4	2.0	78.7
	その他	6	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7
性別	男性	617	15.6	7.3	5.3	5.3	2.8	1.0	1.1	1.9	69.4
	女性	540	18.0	5.0	4.8	4.6	3.5	2.4	0.7	2.4	67.6
年代別	6～17歳	113	8.0	6.2	6.2	3.5	0.9	0.9	0.0	3.5	74.3
	18～19歳	23	8.7	8.7	13.0	8.7	8.7	0.0	0.0	0.0	69.6
	20代	132	11.4	6.1	9.1	6.1	6.8	0.8	0.0	1.5	72.0
	30代	102	6.9	6.9	4.9	8.8	2.0	2.9	0.0	2.0	73.5
	40代	147	14.3	7.5	4.1	6.1	3.4	2.0	0.0	0.7	69.4
	50代	174	16.1	6.9	3.4	5.7	2.9	1.1	2.3	2.3	71.3
	60代	155	20.0	5.2	6.5	2.6	3.2	1.9	1.3	1.9	69.0
	70代以上	311	25.7	5.5	3.2	3.9	2.3	1.9	1.6	2.9	61.1
	18歳以上	1,044	17.6	6.2	5.0	5.2	3.4	1.7	1.1	2.0	67.9

なお、「その他」への回答は、次のとおりであった。（代表的回答例）

- ・ やりたがらない
- ・ 活動したいが、体力が持たない
- ・ 高齢者

(12) 運動・スポーツ活動を行いたいと思わなかった理由

問2 (10) ((9) がケの方向け)、「活動したいと思わない」と回答したのはどのような理由からですか。(当てはまるものすべて)

- ア 運動・スポーツが嫌いだから
- イ 運動・スポーツに興味がないから
- ウ 疲れるから
- エ 人前に出るのが好きではないから
- オ 学校の体育や部活動等で苦手意識を持ったから
- カ スポーツ以外に趣味があるから
- キ 忙しいから
- ク その他 ()
- ケ わからない → 問3 (1) へ進む

《全体集計結果》

〔問2 (9)〕で、運動やスポーツの活動を行いたいと思わない人(793人)に、活動したいと思わない理由をたずねたところ、「疲れるから」(18.9%)が最も高く、次いで「運動・スポーツが嫌いだから」(15.1%)、「運動・スポーツに興味がないから」(13.4%)となった。なお、「わからない」は47.9%であった。

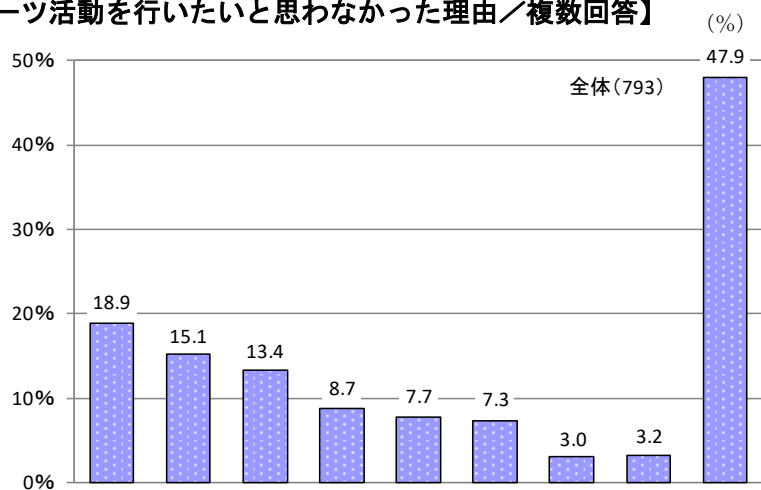
《属性別集計結果》

障害種別でみると、「疲れるから」は、精神障害(25.6%)が、視覚障害(12.1%)、内部障害(13.8%)、知的障害(14.7%)に比べて高かった。

性別でみると、統計的に有意な差はなかった。

年代別でみると、「運動・スポーツが嫌いだから」は、50代(21.8%)が、70代以上(10.0%)に比べて高かった。

【図表 1-12：運動・スポーツ活動を行いたいと思わなかった理由／複数回答】



		サンプル数	疲れから	運動・スポーツが嫌いだから	運動・スポーツに興味がないから	忙しいから	人前に出るのが好きではないから	スポーツ以外に興味があるから	学校以外の体育や部活動等で苦手意識を持ったから	その他	わからない
全体		793	18.9	15.1	13.4	8.7	7.7	7.3	3.0	3.2	47.9
障害種別	視覚障害	58	12.1	5.2	5.2	3.4	3.4	6.9	1.7	5.2	62.1
	聴覚・平衡機能障害	52	15.4	5.8	1.9	15.4	7.7	3.8	1.9	3.8	59.6
	音声・言語・そしゃく障害	8	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	75.0
	肢体不自由	218	18.3	14.2	14.7	7.8	7.8	6.9	0.9	4.6	43.6
	内部障害	87	13.8	11.5	10.3	12.6	5.7	8.0	1.1	4.6	50.6
	知的障害	129	14.7	13.2	14.7	10.1	3.9	14.0	1.6	1.6	48.8
	精神障害	281	25.6	21.4	16.4	6.4	10.7	4.6	6.4	2.1	45.9
	その他	4	50.0	25.0	0.0	25.0	25.0	0.0	25.0	25.0	25.0
性別	男性	428	18.9	13.1	12.1	8.9	6.8	8.2	2.6	3.7	49.1
	女性	365	18.9	17.5	14.8	8.5	8.8	6.3	3.6	2.5	46.6
年代別	6～17歳	84	16.7	13.1	11.9	4.8	4.8	8.3	2.4	2.4	58.3
	18～19歳	16	18.8	37.5	12.5	6.3	12.5	6.3	6.3	6.3	31.3
	20代	95	17.9	12.6	15.8	12.6	5.3	5.3	4.2	1.1	49.5
	30代	75	10.7	14.7	6.7	4.0	1.3	9.3	1.3	0.0	58.7
	40代	102	19.6	19.6	18.6	10.8	12.7	9.8	7.8	2.0	47.1
	50代	124	29.8	21.8	15.3	7.3	11.3	6.5	3.2	4.0	40.3
	60代	107	19.6	13.1	13.1	14.0	9.3	12.1	3.7	4.7	39.3
	70代以上	190	15.8	10.0	11.6	7.4	6.3	3.7	0.0	4.7	50.0
	18歳以上	709	19.2	15.4	13.5	9.2	8.0	7.2	3.1	3.2	46.7

なお、「その他」への回答は、次のとおりであった。（代表的回答例）

- ・ あまり運動に適した体の状態でないから
- ・ 体力がないから
- ・ 外に出たくないから

(13) どのような運動やスポーツに参加したいか

問2 (11) どのような運動やスポーツであれば参加したいと思いますか。(当てはまるものすべて)

- ア 予約や申し込みなしに、参加したいときに参加できる
- イ ルールが簡単
- ウ 新しい道具やウェアを買わなくてよい
- エ 自分のペースに合わせてできる
- オ 上達したことが分かる
- カ 失敗しても笑われたり恥ずかしい思いをしない
- キ 好きな種目を選べる
- ク やったことがないスポーツを試せる
- ケ 汗をかかない
- コ 有名な選手に会える
- サ 親子で一緒に参加ができる
- シ 新しい友達をつくることができる
- ス スポーツ以外に芸術・文化的なパフォーマンスも楽しめる
- セ その他 ()

《全体集計結果》

[問2 (1)]で、この1年間に運動・スポーツを行った人、または[問2 (9)]で、活動したいと思っている人(1,903人)に、どのような運動やスポーツであれば参加したいと思うかたずねたところ、「自分のペースに合わせてできる」(51.9%)が最も高く、次いで「予約や申し込みなしに、参加したいときに参加できる」(34.8%)、「ルールが簡単」(29.3%)となった。

《属性別集計結果》

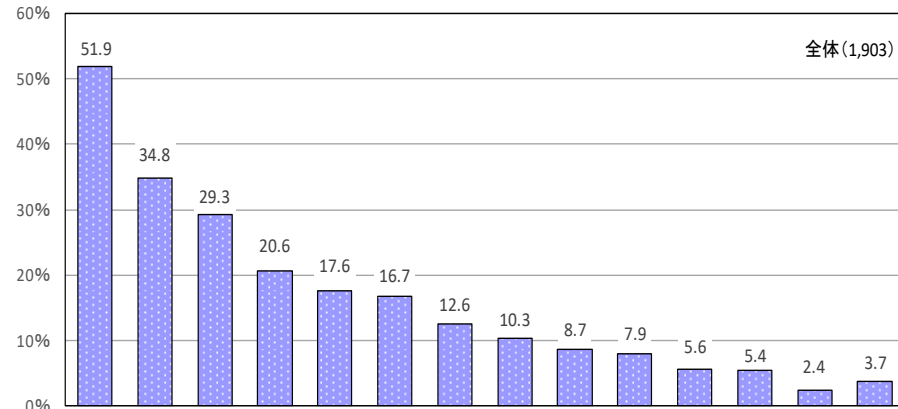
障害種別でみると、「ルールが簡単」は、知的障害(42.1%)が肢体不自由(22.9%)、内部障害(23.7%)、精神障害(31.2%)、聴覚・平衡機能障害(31.5%)に比べて高かった。

性別でみると、統計的に有意な差はなかった。

年代別でみると、「失敗しても笑われたり恥ずかしい思いをしない」は、6～17歳(34.9%)が20代以上に比べて高かった。

【図表 1-13：どのような運動やスポーツに参加したいか／複数回答】

(%)



		サンプル数	自分のペースに合わせてできる	予約や申し込みなしに、参加したいときに参加できる	ルールが簡単	新しい道具やウェアを買わなくてよい	失敗しても笑われたり恥ずかしい思いをしな	好きな種目を選べる	新しい友達をつくることのできる	上達したことが分かる	スポーツ以外に芸術・文化的なパフォーマンスも楽しめる	やったことがないスポーツを試せる	親子と一緒に参加ができる	汗をかかない	有名な選手に会える	その他
全体		1,903	51.9	34.8	29.3	20.6	17.6	16.7	12.6	10.3	8.7	7.9	5.6	5.4	2.4	3.7
障害種別	視覚障害	93	36.6	23.7	34.4	18.3	15.1	14.0	6.5	8.6	11.8	10.8	8.6	7.5	2.2	3.2
	聴覚・平衡機能障害	124	46.0	32.3	31.5	18.5	16.1	14.5	10.5	12.9	7.3	9.7	5.6	12.9	2.4	0.8
	音声・言語・そしゃく障害	54	31.5	33.3	35.2	14.8	13.0	13.0	20.4	16.7	5.6	7.4	9.3	7.4	1.9	3.7
	肢体不自由	652	54.1	32.1	22.9	18.3	13.3	15.6	12.3	10.6	8.9	7.1	4.4	4.8	2.6	6.0
	内部障害	262	55.3	38.2	23.7	17.9	13.0	11.8	9.9	10.7	11.1	5.0	3.8	5.7	1.9	2.7
	知的障害	366	51.6	33.6	42.1	20.5	26.8	18.6	15.0	11.5	7.9	9.6	11.7	2.5	4.4	3.3
	精神障害	552	53.4	37.5	31.2	25.9	21.0	20.1	13.8	10.0	9.8	10.3	6.3	6.9	2.0	2.9
	その他	19	57.9	42.1	31.6	21.1	31.6	26.3	15.8	15.8	15.8	15.8	0.0	5.3	0.0	5.3
性別	男性	1,127	53.3	34.7	29.4	20.8	18.4	17.1	13.6	10.9	8.0	8.7	5.9	5.0	2.4	3.5
	女性	776	49.7	34.9	29.1	20.4	16.5	16.1	11.1	9.4	9.7	6.8	5.2	6.1	2.3	4.0
年代別	6～17歳	218	46.3	30.7	37.6	22.0	34.9	24.3	20.6	17.0	8.7	11.9	17.4	1.8	3.7	2.8
	18～19歳	35	54.3	42.9	60.0	20.0	34.3	17.1	14.3	11.4	5.7	5.7	20.0	0.0	5.7	0.0
	20代	185	46.5	34.6	33.0	18.4	21.6	14.1	12.4	8.6	7.0	8.6	5.4	6.5	4.3	3.8
	30代	161	55.3	32.9	34.8	28.0	21.1	19.9	14.3	9.9	9.3	9.3	6.2	6.8	4.3	1.9
	40代	246	47.2	30.5	29.3	23.2	14.2	15.9	11.4	11.8	10.2	8.9	5.7	6.9	2.8	2.4
	50代	310	51.6	36.5	25.5	18.4	19.0	16.8	11.3	10.3	7.7	8.1	2.6	6.8	0.3	4.2
	60代	263	57.8	36.1	20.9	16.7	9.9	14.8	9.5	4.9	7.2	7.6	2.3	4.9	1.9	4.6
	70代以上	485	54.4	37.1	27.0	20.6	10.9	14.6	11.3	10.1	9.9	5.2	2.9	5.2	1.4	4.9
	18歳以上	1,685	52.6	35.3	28.2	20.4	15.4	15.7	11.5	9.4	8.7	7.4	4.1	5.9	2.2	3.9

なお、「その他」への回答は、次のとおりであった。（代表的回答例）

- ・ 出来ない
- ・ スポーツをしたいと思わない
- ・ 一人で行ける

2 県・市町村のスポーツ施策

(1) 県・市町村主催のスポーツ行事参加状況

問3 (1) この1年間に県や市町村が主催するスポーツ行事に参加したことがありますか。
1つだけ選んでください。(行事名または内容を記入してください)

- ア 参加した(参加した行事名または内容_____)
- イ 観に行った(観に行った行事名または内容_____)
- ウ 参加しなかった

《全体集計結果》

全員に、この1年間に県や市町村が主催するスポーツ行事に参加したことがあるかたずねたところ、「参加した」が2.7%、「観に行った」が0.5%となった。なお、「参加しなかった」は96.8%であった。

《属性別集計結果》

障害種別でみると、「参加した」は、音声・言語・そしゃく障害(6.5%)、視覚障害(5.3%)、聴覚・平衡機能障害(5.1%)、知的障害(4.6%)が精神障害(1.4%)、肢体不自由(2.1%)に比べて高かった。

性別でみると、統計的に有意な差はなかった。

年代別でみると、「参加した」は、6～17歳(4.3%)が50代(1.6%)、70代以上(1.9%)に比べて高かった。

なお、「参加した行事」への回答は、次のとおりであった。(代表的回答例)

- ・ 運動会
- ・ マラソン大会

なお、「観に行った行事」への回答は、次のとおりであった。(代表的回答例)

- ・ マラソン大会
- ・ 水泳

【図表２－１：県・市町村主催のスポーツ行事参加状況／単一回答】



（２） 県・市町村主催のスポーツ教室参加状況

問３（２） この１年間に県や市町村が主催するスポーツ教室に参加したことがありますか。
（参加したスポーツ種目を記入してください）

- ア 参加した（参加した種目 _____）
イ 参加しなかった

《全体集計結果》

全員に、この１年間に県や市町村が主催するスポーツ教室に参加したことがあるかたずねたところ、「参加した」が1.9%、「参加しなかった」が98.1%であった。

《属性別集計結果》

障害種別でみると、「参加した」は、音声・言語・そしゃく障害（6.5%）が精神障害（1.1%）、内部障害（1.7%）、肢体不自由（2.3%）に比べて高かった。

性別でみると、統計的に有意な差はなかった。

年代別でみると、「参加した」は、6～17歳（3.0%）が40代（0.9%）に比べて高かった。

なお、「参加した種目」への回答は、次のとおりであった。（代表的回答例）

- ・ サッカー
- ・ ボッチャ
- ・ 水泳

【図表２－２：県・市町村主催のスポーツ教室参加状況／単一回答】



（３） 県・市町村主催のスポーツ行事・教室参加意向

問３（３） スポーツ行事やスポーツ教室に参加したいと思いますか。1つだけ選んでください。（ア、イを選んだ場合はどのようなスポーツ行事や教室に参加したいか記入してください）

- ア ぜひ参加したい（参加したいスポーツ行事や教室_____）

イ できれば参加したい（参加したいスポーツ行事や教室_____）

ウ あまり参加したくない

エ 参加するつもりはない

《全体集計結果》

全員に、スポーツ行事やスポーツ教室に参加したいと思うかたずねたところ、《参加したい群（「ぜひ参加したい」＋「できれば参加したい」）》が9.8%、《参加したくない群（「あまり参加したくない」＋「参加するつもりはない」）》が90.2%であった。

《属性別集計結果》

障害種別でみると、「参加するつもりはない」は、視覚障害（57.0%）が知的障害（44.6%）に比べて高かった。

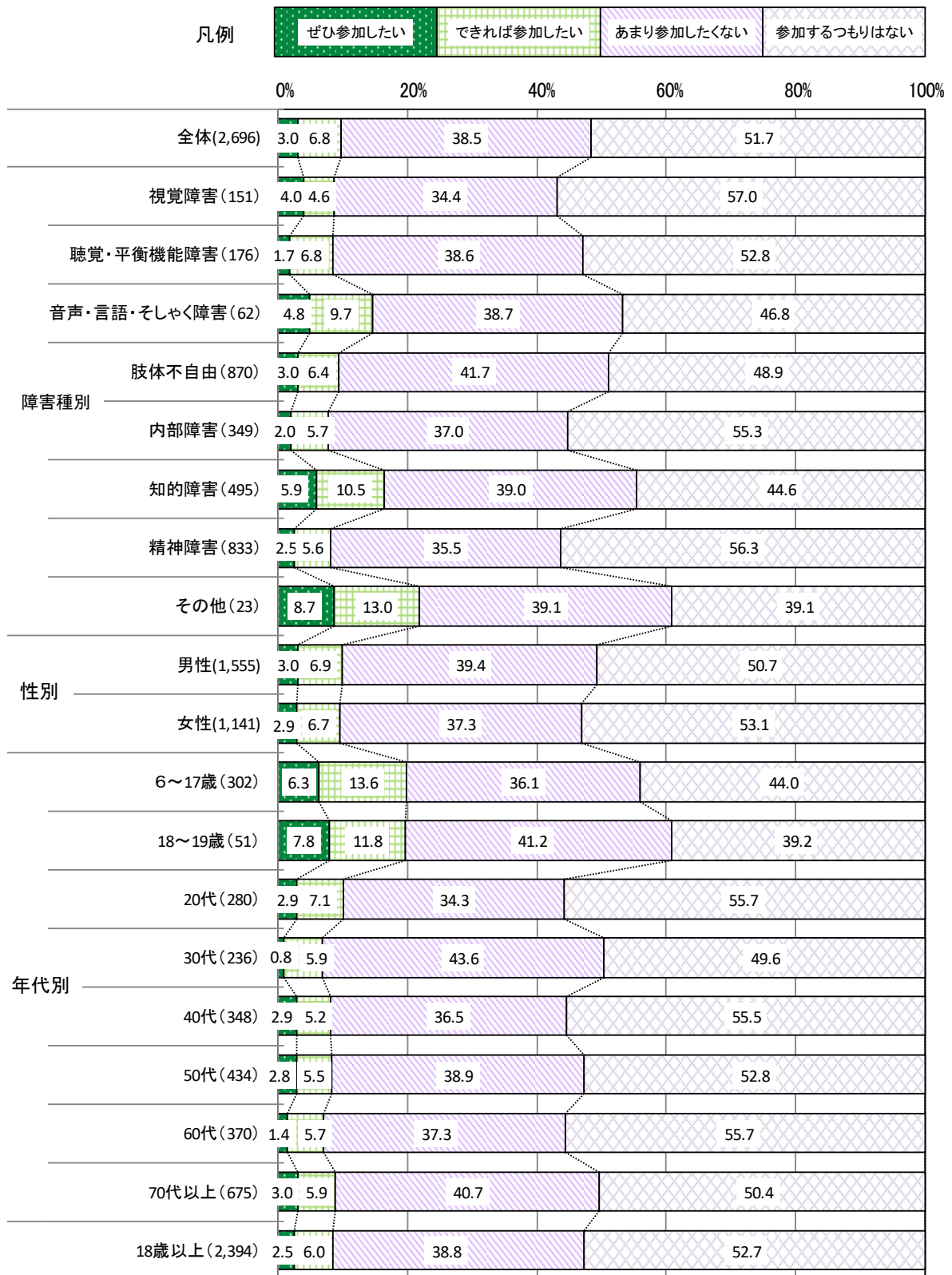
性別でみると、統計的に有意な差はなかった。

年代別でみると、「ぜひ参加したい」は、6～17歳（6.3%）が20代以上に比べて高かった。

なお、「参加したいスポーツ行事や教室」への回答は、次のとおりであった。（代表的回答例）

- ・ 水泳
- ・ サッカー
- ・ バスケットボール
- ・ ダンス
- ・ 体操
- ・ 野球
- ・ ゴルフ

【図表２－３：県・市町村主催のスポーツ行事・教室参加意向／単一回答】



（４）「かながわパラスポーツ」の認知

問４（１）「かながわパラスポーツ」※について知っていますか。1つだけ選んでください。

※ 「かながわパラスポーツ」とは、関心、目的、体力、年齢、運動機能及び健康状態に応じて県民が、生涯にわたり楽しみながらスポーツをする、観る及び支えることをいいます。

- ア 内容を詳しく知っている
- イ 知っている（聞いたことはある）
- ウ 知らない

《全体集計結果》

全員に、「かながわパラスポーツ」を知っているかたずねたところ、「知らない」（79.4%）が最も高く、次いで「知っている（聞いたことはある）」（18.6%）となった。また、《認知群（「内容を詳しく知っている」＋「知っている（聞いたことはある）」》は、全体の20.6%であった。

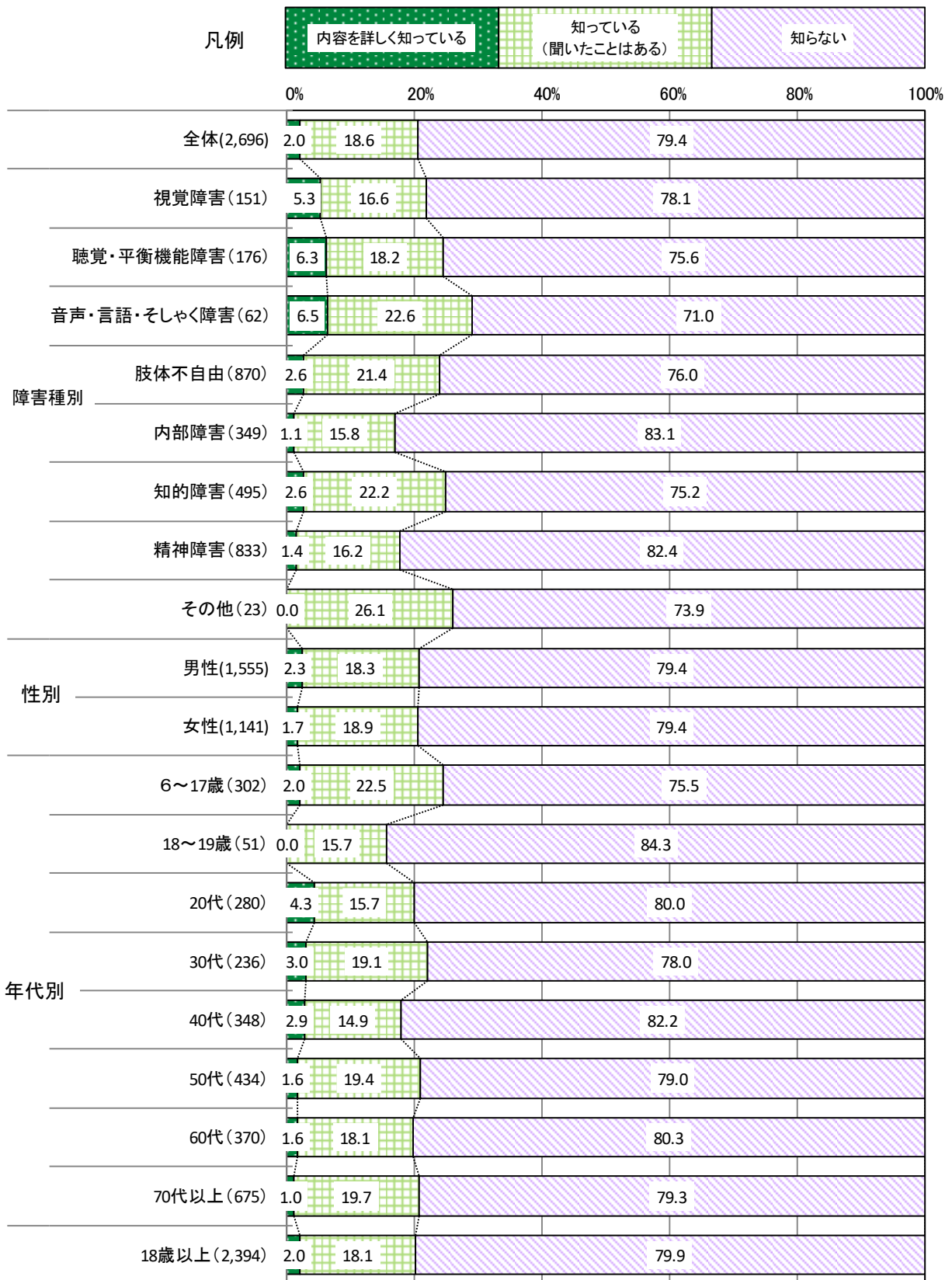
《属性別集計結果》

障害種別でみると、「内容を詳しく知っている」は、聴覚・平衡機能障害（6.3%）が内部障害（1.1%）、精神障害（1.4%）、肢体不自由、知的障害（いずれも2.6%）に比べて高かった。

性別でみると、統計的に有意な差はなかった。

年代別でみると、「内容を詳しく知っている」は、20代（4.3%）が50代以上に比べて高かった。

【図表２－４：「かながわパラスポーツ」の認知／単一回答】



3 運動・スポーツの観戦状況

(1) スポーツ観戦への関心

問5 (1) スポーツ観戦について関心がありますか。

- ア ある
- イ ない

《全体集計結果》

全員に、スポーツ観戦について関心があるかたずねたところ、「ある」が45.7%、「ない」が54.3%であった。

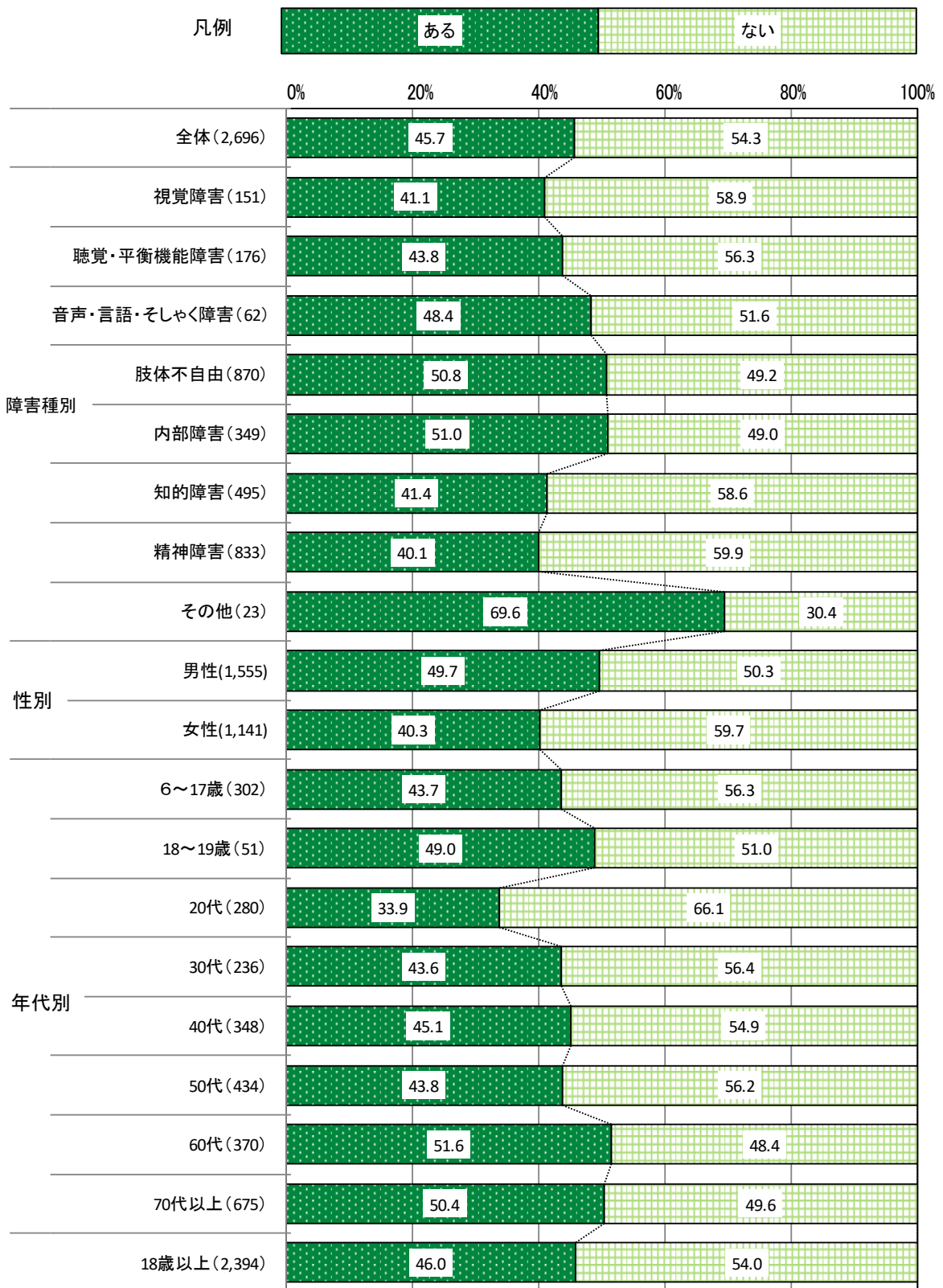
《属性別集計結果》

障害種別でみると、「ある」は、内部障害（51.0%）、肢体不自由（50.8%）が精神障害（40.1%）、視覚障害（41.1%）、知的障害（41.4%）に比べて高かった。

性別でみると、「ある」は、男性（49.7%）が女性（40.3%）に比べて高かった。

年代別でみると、「ない」は、20代（66.1%）が他の年代を大きく上回った。

【図表３－１：スポーツ観戦への関心／単一回答】



（２）スポーツ観戦経験

問５（２） この１年間で直接会場へ行ってスポーツ観戦をしましたか。

- | |
|---------|
| ア した |
| イ していない |

《全体集計結果》

全員に、この１年間で直接会場へ行ってスポーツ観戦をしたかたずねたところ、「した」が15.4%、「していない」は84.6%であった。

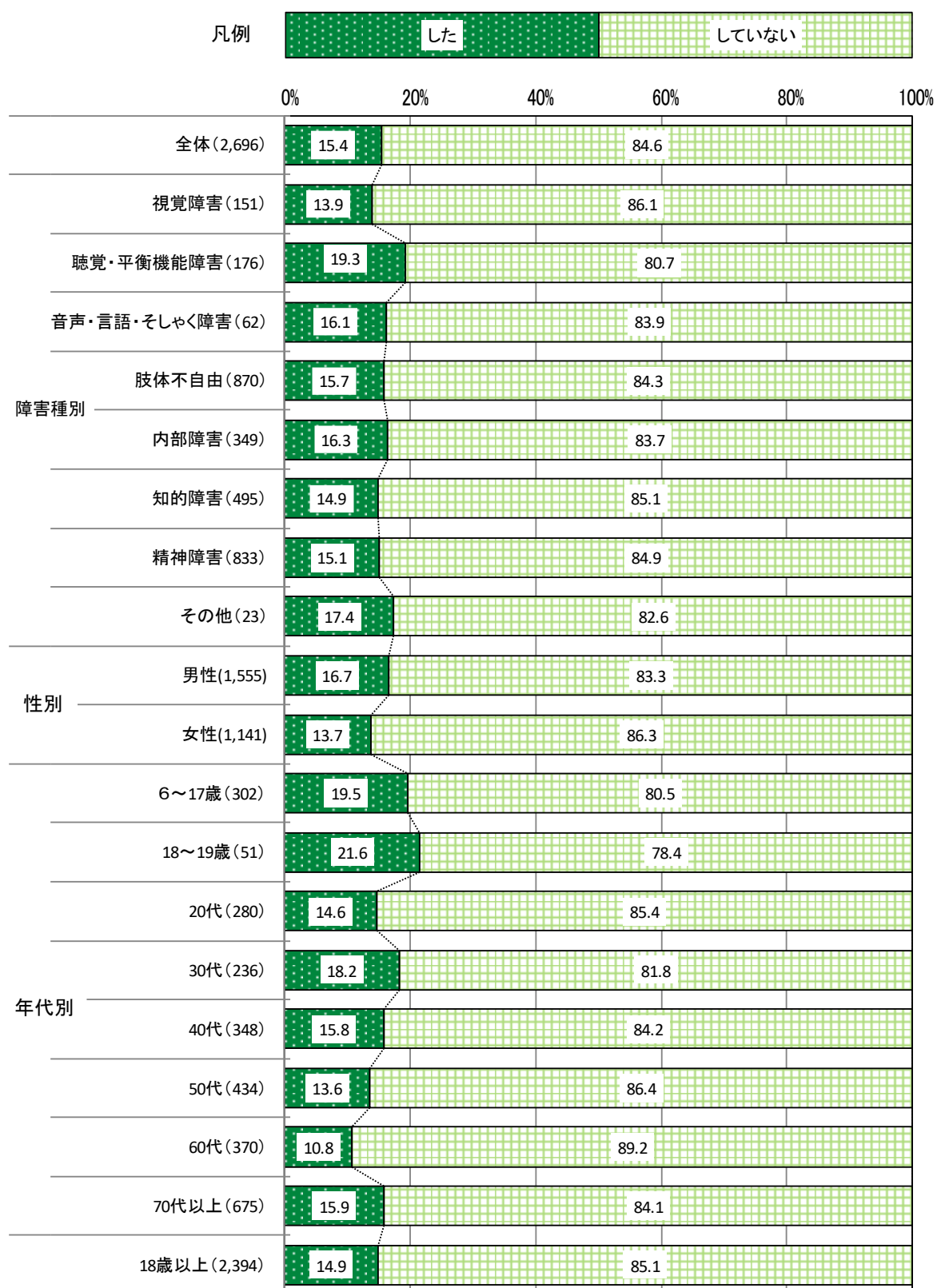
《属性別集計結果》

障害種別でみると、統計的に有意な差はなかった。

性別でみると、「した」は、男性（16.7%）が女性（13.7%）に比べて高かった。

年代別でみると、「した」は、18～19歳（21.6%）が60代（10.8%）、40代（15.8%）、70代以上（15.9%）、30代（18.2%）に比べて高かった。

【図表３－２：スポーツ観戦経験／単一回答】



(3) 会場で直接観戦したいスポーツの規模

問５（３） 直接会場へ行ってスポーツ観戦をしたら、どのような規模のスポーツ観戦をしたいですか。２つまで選んでください。

- ア オリンピックやパラリンピックなど国際大会
イ 国内のプロスポーツ
ウ 全国レベルの大会
エ 県レベルの大会
オ その他（ ）
カ 特になし

《全体集計結果》

〔問5（1）〕でスポーツ観戦について関心がある人（1,233人）に、直接会場へ行ってスポーツ観戦をするとしたら、どのような規模のスポーツ観戦をしたいかたずねた（2つまで回答可）ところ、「国内のプロスポーツ」（58.2%）が最も高く、次いで「オリンピックやパラリンピックなど国際大会」（38.4%）となった。

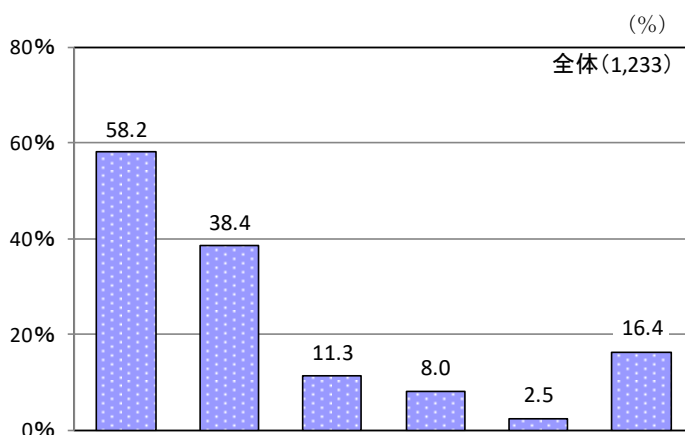
《属性別集計結果》

障害種別でみると、「オリンピックやパラリンピックなど国際大会」は、肢体不自由（43.0%）が精神障害（34.4%）に比べて高かった。

性別でみると、統計的に有意な差はなかった。

年代別でみると、「全国レベルの大会」は、6～17歳（19.7%）が40代（6.4%）、30代（7.8%）、50代（8.9%）、70代以上（10.6%）に比べて高かった。

【図表３－３：会場で直接観戦したいスポーツの規模／複数回答（２つまで）】



		サンプル数	国内のプロスポーツ	オリンピックやパラリンピックなど国際大会	全国レベルの大会	県レベルの大会	その他	特になし
全体		1,233	58.2	38.4	11.3	8.0	2.5	16.4
障害種別	視覚障害	62	51.6	35.5	11.3	11.3	0.0	25.8
	聴覚・平衡機能障害	77	63.6	37.7	15.6	10.4	0.0	16.9
	音声・言語・そしゃく障害	30	56.7	36.7	16.7	13.3	0.0	16.7
	肢体不自由	442	57.0	43.0	13.3	7.7	2.5	15.4
	内部障害	178	57.9	34.8	6.2	7.9	4.5	19.7
	知的障害	205	61.0	42.0	12.7	12.2	1.5	12.2
	精神障害	334	61.4	34.4	9.6	8.1	3.0	13.2
	その他	16	37.5	37.5	31.3	6.3	0.0	31.3
性別	男性	773	59.6	37.1	11.8	7.6	2.8	16.3
	女性	460	55.7	40.7	10.4	8.7	2.0	16.5
年代別	6～17歳	132	59.1	45.5	19.7	9.8	0.0	12.9
	18～19歳	25	72.0	32.0	12.0	16.0	8.0	8.0
	20代	95	57.9	34.7	15.8	10.5	2.1	10.5
	30代	103	56.3	34.0	7.8	9.7	1.9	14.6
	40代	157	63.1	36.9	6.4	5.1	1.9	19.7
	50代	190	61.1	37.4	8.9	6.8	4.2	16.8
	60代	191	54.5	37.7	12.6	7.9	2.1	19.4
	70代以上	340	55.6	40.3	10.6	7.6	2.9	17.1
	18歳以上	1,101	58.0	37.6	10.3	7.8	2.8	16.8

なお、「その他」への回答は、次のとおりであった。（代表的回答例）

- ・ 地域レベルの大会
- ・ 海外プロスポーツなどの日本国内興行

(4) 会場で直接観戦したいスポーツの競技

問5 (4) 直接会場へ行ってスポーツ観戦をしたら、どのような競技を観戦したいですか。3つまで選んでください。(ア～スの選択数とセ～チの種目名の合計が3つまでになるようにしてください)

- | | | |
|---|---------------------|---|
| ア | 陸上競技 | |
| イ | マラソン | |
| ウ | 水泳競技 | |
| エ | 柔道、剣道、相撲、空手 | |
| オ | ボクシング、レスリング | |
| カ | 弓道、アーチェリー | |
| キ | セーリング | |
| ク | 野球、ソフトボール | |
| ケ | サッカー、フットサル | |
| コ | バレーボール | |
| サ | テニス、卓球、バドミントン | |
| シ | バスケットボール | |
| ス | ラグビー | |
| セ | その他の球技スポーツ（種目名 | ） |
| ソ | アーバンスポーツ※（種目名 | ） |
| タ | 障害者スポーツ（パラスポーツ）（種目名 | ） |
| チ | その他のスポーツ（種目名 | ） |
| ツ | 特になし | |

※ 「アーバンスポーツ」とは、スケートボード、スポーツクライミング、自転車BMX、3×3バスケットボール、ブレイキンなど、広い場所を必要としないなど都市住民が参加しやすい都市型スポーツです。

《全体集計結果》

全員に、直接会場へ行ってスポーツ観戦をしたら、どのような競技を観戦したいかたずねた（3つまで回答可）ところ、「野球、ソフトボール」（29.0%）が最も高く、次いで「サッカー、フットサル」（19.8%）、「陸上競技」（10.1%）となった。なお、「特になし」は、39.9%であった。

《属性別集計結果》

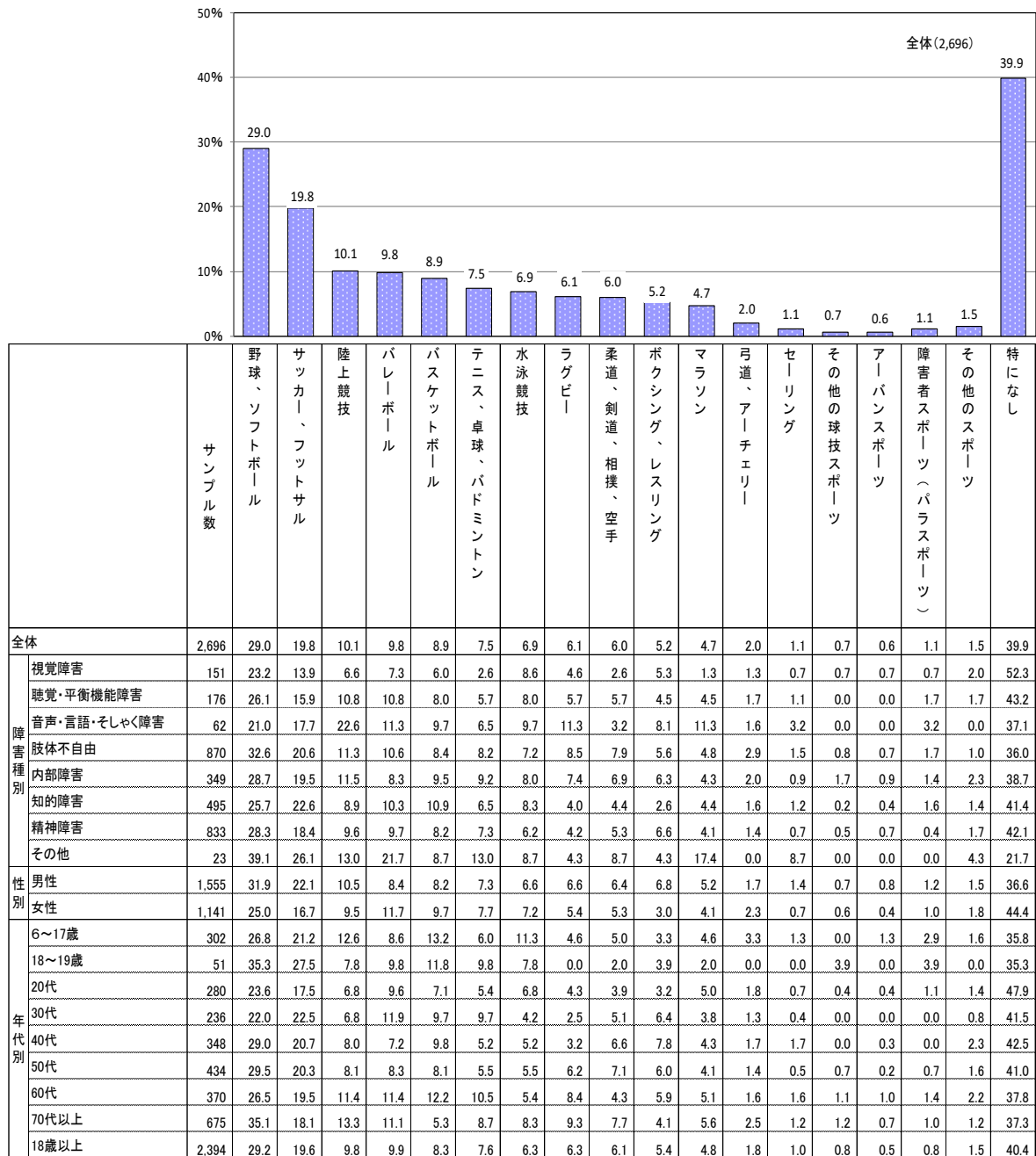
障害種別でみると、「陸上競技」は、音声・言語・そしやく障害（22.6%）が他の障害種別に比べて高かった。

性別でみると、「野球、ソフトボール」は、男性（31.9%）が女性（25.0%）に比べて高かった。また、「バレーボール」は、女性（11.7%）が男性（8.4%）に比べて高かった。

年代別でみると、「陸上競技」は、70代以上（13.3%）が20代、30代（いずれも6.8%）、40代（8.0%）、50代（8.1%）に比べて高かった。

【図表 3－4：会場で直接観戦したいスポーツの競技／複数回答（3つまで）】

(%)



なお、「その他の球技スポーツ（種目名）」、「アーバンスポーツ（種目名）」、「障害者スポーツ（パラスポーツ）（種目名）」、「その他のスポーツ（種目名）」への回答は、次のとおりであった。（代表的回答例）

「その他の球技スポーツ（種目名）」

- ・ アメリカンフットボール
- ・ ゴルフ

「アーバンスポーツ（種目名）」

- ・ 自転車BMX

「障害者スポーツ（パラスポーツ）（種目名）」

- ・ ボッチャ

「その他のスポーツ（種目名）」

- ・ モータースポーツ
- ・ 自転車競技

（５）テレビやインターネットなどでのスポーツ観戦経験

問５（５） この１年間でテレビやインターネットなどでスポーツ観戦をしましたか。

- ア した
- イ していない

《全体集計結果》

全員に、この１年間でテレビやインターネットなどでスポーツ観戦をしたかたずねたところ、「した」が60.3%、「していない」が39.7%であった。

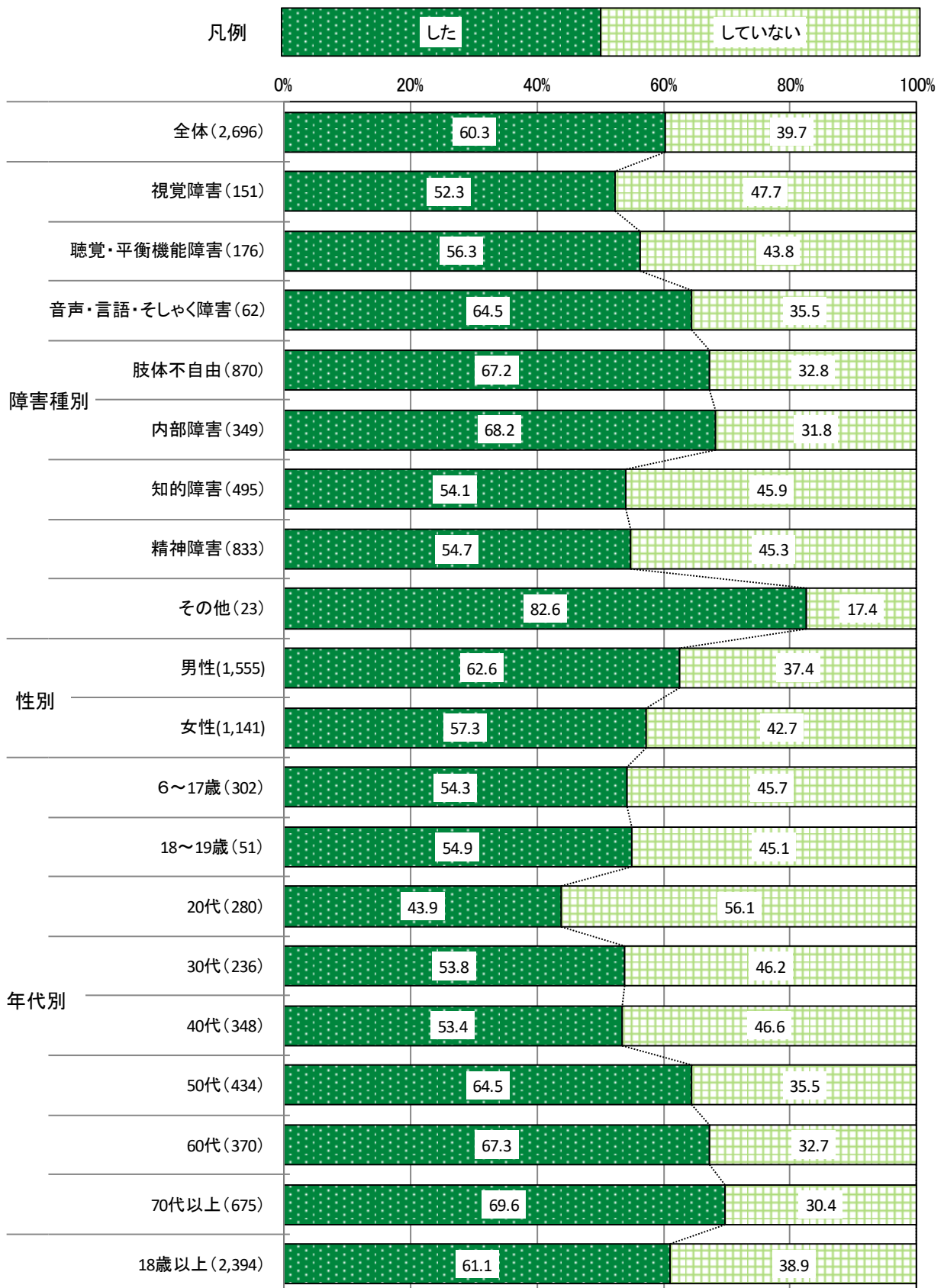
《属性別集計結果》

障害種別でみると、「した」は、内部障害（68.2%）、肢体不自由（67.2%）が視覚障害（52.3%）、知的障害（54.1%）、精神障害（54.7%）、聴覚・平衡機能障害（56.3%）に比べて高かった。

性別でみると、「した」は、男性（62.6%）が女性（57.3%）に比べて高かった。

年代別でみると、「した」は、70代以上（69.6%）が40代以下に比べて高かった。

【図表３－５：テレビやインターネットなどでのスポーツ観戦経験／単一回答】



(6) テレビやインターネットなどで観戦をしたいスポーツの規模

問5 (6) テレビやインターネットなどでスポーツ観戦をしたら、どのような規模のスポーツ観戦をしたいですか。2つまで選んでください。

- ア オリンピックやパラリンピックなど国際大会
イ 国内のプロスポーツ
ウ 全国レベルの大会
エ 県レベルの大会
オ その他（ ）
カ 特になし

《全体集計結果》

全員に、テレビやインターネットなどでスポーツ観戦をしたら、どのような規模のスポーツ観戦をしたいかたずねた（2つまで回答可）ところ、「オリンピックやパラリンピックなど国際大会」（45.5%）が最も高く、次いで「国内のプロスポーツ」（43.8%）となった。なお、「特になし」は、33.4%であった。

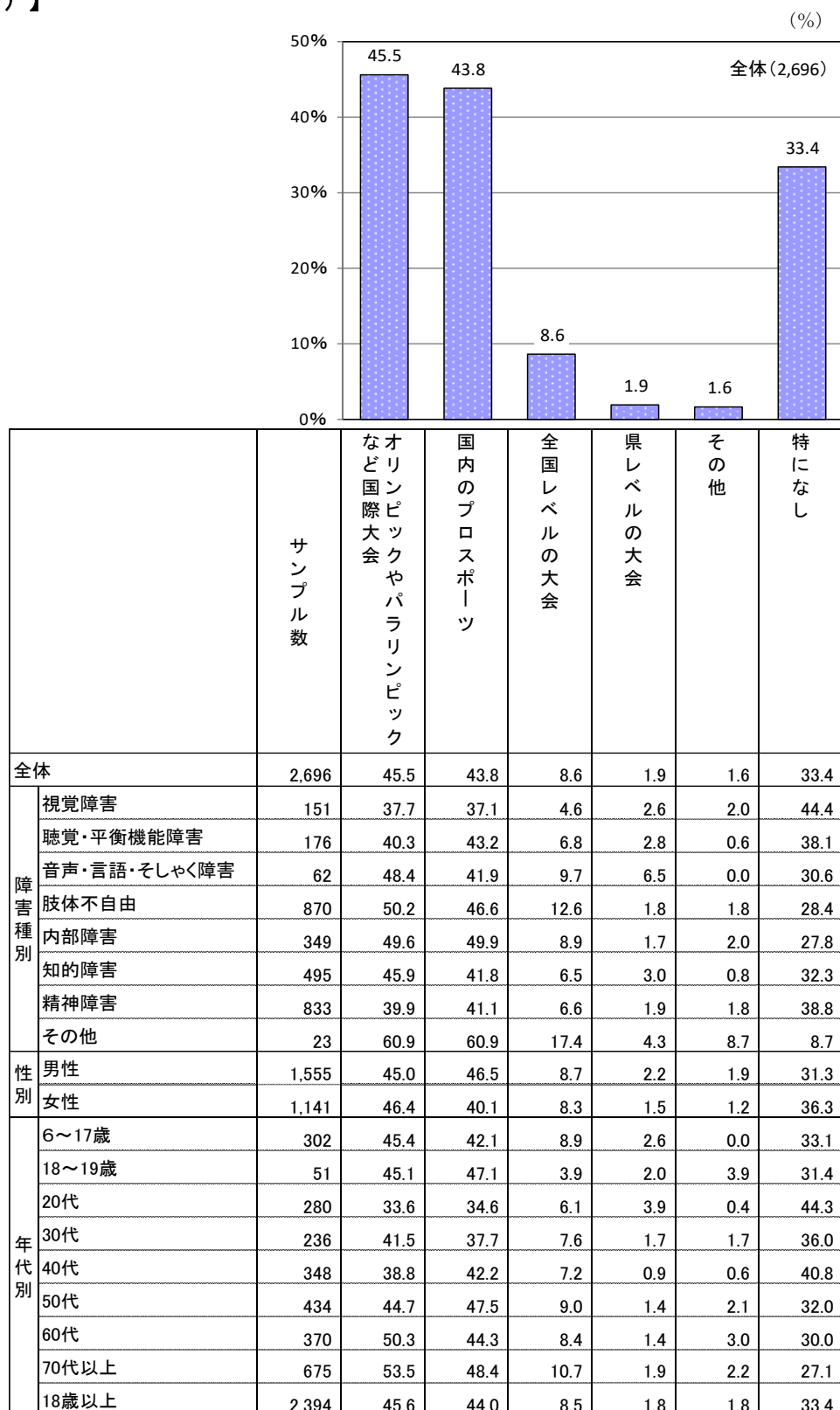
《属性別集計結果》

障害種別でみると、「国内のプロスポーツ」は、内部障害（49.9%）が視覚障害（37.1%）、精神障害（41.1%）、知的障害（41.8%）に比べて高かった。

性別でみると、「国内のプロスポーツ」は、男性（46.5%）が女性（40.1%）に比べて高かった。また、「特になし」は、女性（36.3%）が男性（31.3%）に比べて高かった。

年代別でみると、「オリンピックやパラリンピックなど国際大会」は、70代以上（53.5%）が20代（33.6%）、40代（38.8%）、30代（41.5%）、50代（44.7%）、6～17歳（45.4%）に比べて高かった。

【図表３－６：テレビやインターネットなどで観戦をしたいスポーツの規模／複数回答（２つまで）】



なお、「その他」への回答は、次のとおりであった。（代表的回答例）

- ・ M L B
- ・ 国際試合
- ・ 大学ラグビー

(7) テレビやインターネットなどで観戦をしたいスポーツの競技

問5 (7) テレビやインターネットなどでスポーツ観戦をしたら、どのような競技を観戦したいですか。3つまで選んでください。(ア～エの選択数とセ～チの種目名の合計が3つまでになるようにしてください)

- | | | |
|---|---------------------|---|
| ア | 陸上競技 | |
| イ | マラソン | |
| ウ | 水泳競技 | |
| エ | 柔道、剣道、相撲、空手 | |
| オ | ボクシング、レスリング | |
| カ | 弓道、アーチェリー | |
| キ | セーリング | |
| ク | 野球、ソフトボール | |
| ケ | サッカー、フットサル | |
| コ | バレーボール | |
| サ | テニス、卓球、バドミントン | |
| シ | バスケットボール | |
| ス | ラグビー | |
| セ | その他の球技スポーツ（種目名 | ） |
| ソ | アーバンスポーツ※（種目名 | ） |
| タ | 障害者スポーツ（パラスポーツ）（種目名 | ） |
| チ | その他のスポーツ（種目名 | ） |
| ツ | 特になし | |

※ 「アーバンスポーツ」とは、スケートボード、スポーツクライミング、自転車BMX、3×3バスケットボール、ブレイキンなど、広い場所を必要としないなど都市住民が参加しやすい都市型スポーツです。

《全体集計結果》

全員に、テレビやインターネットなどでどのような競技を観戦したいかたずねた（3つまで回答可）ところ、「野球、ソフトボール」（36.5%）が最も高く、次いで「サッカー、フットサル」（26.3%）、「バレーボール」（14.9%）となった。なお「特になし」は、31.3%であった。

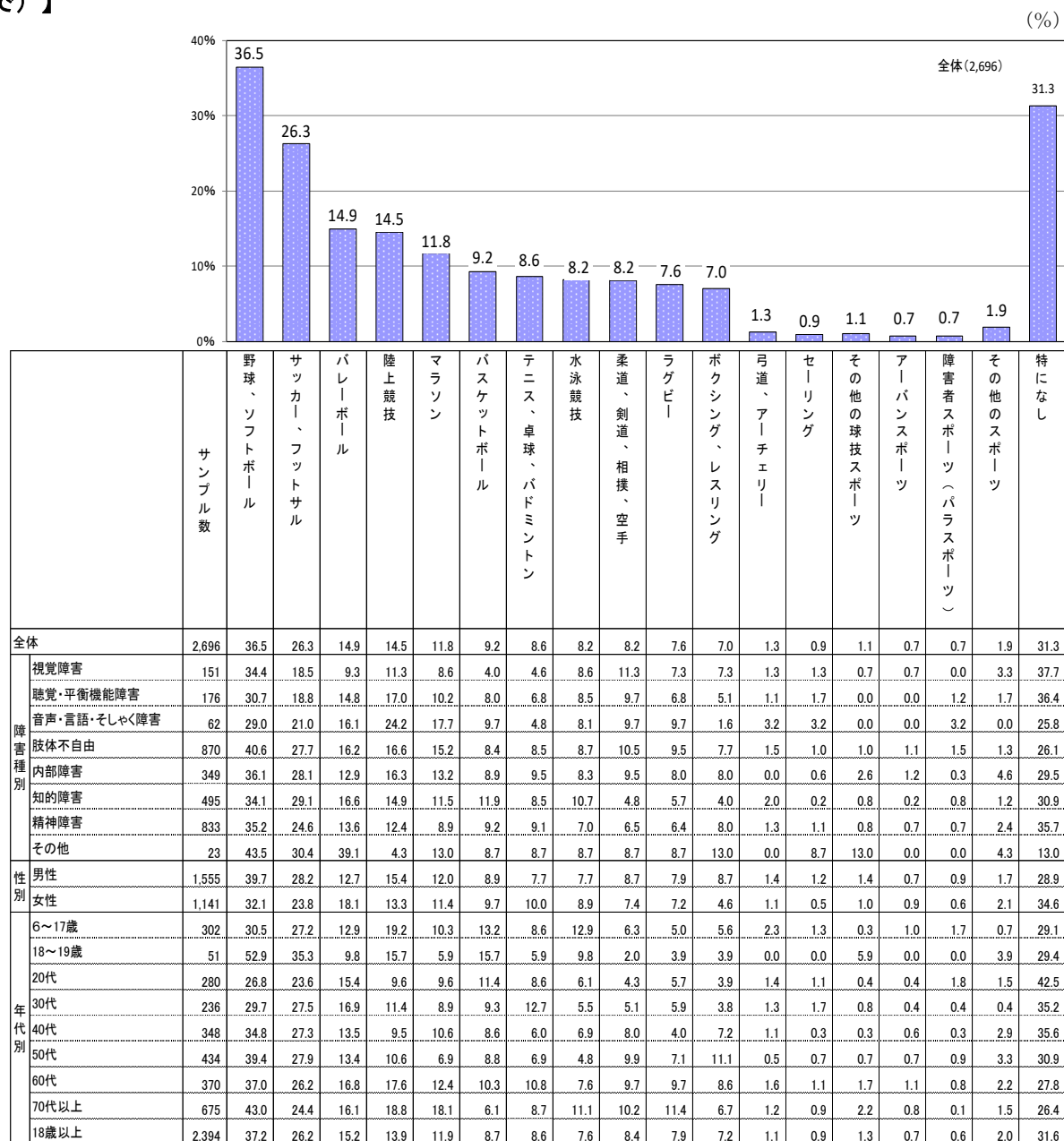
《屬性別集計結果》

障害種別でみると、「サッカー、フットサル」は、知的障害（29.1%）、内部障害（28.1%）、肢体不自由（27.7%）が視覚障害（18.5%）、聴覚・平衡機能障害（18.8%）に比べて高かった。

性別でみると、「野球、ソフトボール」は、男性（39.7%）が女性（32.1%）に比べて高かった。また、「バレーボール」は、女性（18.1%）が男性（12.7%）に比べて高かった。

年代別でみると、「野球、ソフトボール」は、18～19歳（52.9%）が20代（26.8%）、30代（29.7%）、6～17歳（30.5%）、40代（34.8%）、60代（37.0%）に比べて高かった。また、「マラソン」は、70代以上（18.1%）が他の年代に比べて高かった。

【図表３－７：テレビやインターネットなどで観戦をしたいスポーツの競技／複数回答（３つまで）】



なお、「その他の球技スポーツ（種目名）」、「アーバンスポーツ（種目名）」、「障害者スポーツ（パラスポーツ）（種目名）」、「その他のスポーツ（種目名）」への回答は、次のとおりであった。（代表的回答例）

「その他の球技スポーツ（種目名）」

- ・ ゴルフ
- ・ アメリカンフットボール

「アーバンスポーツ（種目名）」

- ・ スケートボード
- ・ ブレイキン

「障害者スポーツ（パラスポーツ）（種目名）」

- ・ ボッチャ

「その他のスポーツ（種目名）」

- ・ モータースポーツ
- ・ ロードバイク

4 運動・スポーツに関する障壁及び必要な支援

(1) 運動・スポーツをする際の障壁

問6 (1) 運動やスポーツをするにあたって、障壁になっているものは何ですか。(当てはまるものすべて)

- ア 障壁はない
- イ 交通手段・移動手段がない
- ウ 運動・スポーツをできる場所がない
- エ 施設がバリアフリーでない
- オ 施設に利用を断られる
- カ 運動・スポーツに関する情報が得られない
- キ 指導者がいない
- ク 介助者がいない
- ケ 仲間がいない
- コ 家族の負担が大きい
- サ 金銭的な余裕がない
- シ 時間的な余裕がない
- ス 運動・スポーツを行うための用具がない(障害者用)
- セ その他()
- ソ わからない

《全体集計結果》

全員に、運動やスポーツをする際の障壁についてたずねたところ、「障壁はない」(17.5%)が最も高く、次いで「金銭的な余裕がない」(16.0%)、「家族の負担が大きい」(12.0%)となった。なお「わからない」は、35.5%であった。

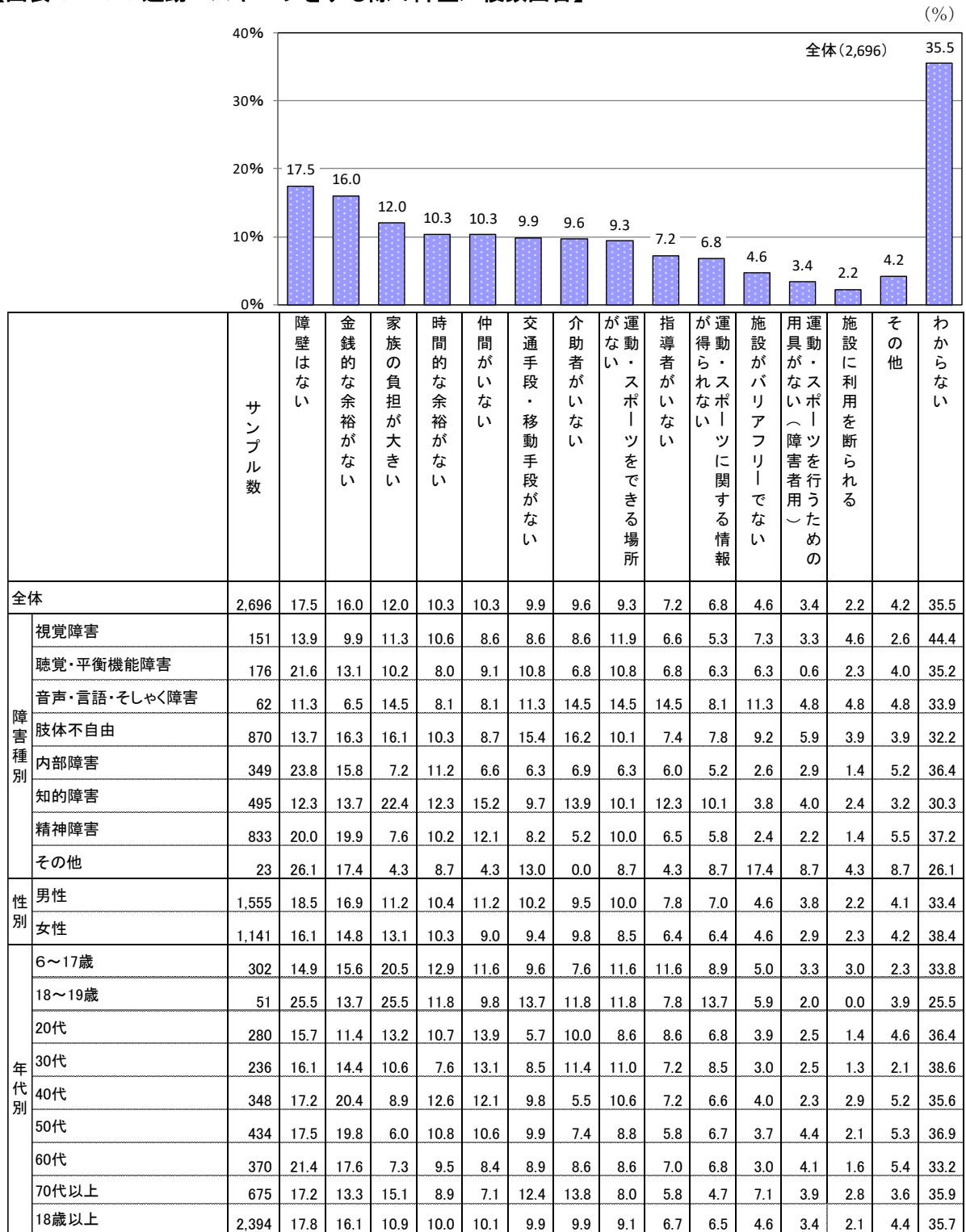
《属性別集計結果》

障害種別でみると、「指導者がいない」は、知的障害(12.3%)が内部障害(6.0%)、精神障害(6.5%)、視覚障害(6.6%)、聴覚・平衡機能障害(6.8%)、肢体不自由(7.4%)に比べて高かった。

性別でみると、統計的に有意な差はなかった。

年代別でみると、「家族の負担が大きい」は、18～19歳(25.5%)、6～17歳(20.5%)が他の年代に比べて高かった。「運動・スポーツに関する情報が得られない」は、18～19歳(13.7%)が70代以上(4.7%)、30代(8.5%)、6～17歳(8.9%)に比べて高かった。

【図表４－１：運動・スポーツをする際の障壁／複数回答】



なお、「その他」への回答は、次のとおりであった。（代表的回答例）

- ・ 身体がキツイ
- ・ 体力がない
- ・ 気力が湧かない
- ・ 精神的負担が大きい
- ・ 外出が怖い

（２）運動・スポーツをする際に必要な支援

問６（２） 運動やスポーツをするにあたって、必要だと思う支援はありますか。（当てはまるものすべて）

- ア スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化
- イ 交通機関（電車やバス）やまちのバリアフリー化
- ウ 会場までの送迎
- エ 障害者への施設開放の促進（障害者が優先的に使える施設が増える）
- オ 障害にあわせたプログラムの充実
- カ 介助者や手話通訳などの支援
- キ 障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実
- ク 施設や用具等を利用する際に必要な手続きの支援
- ケ 障害や障害者、補助犬（盲導犬、介助犬、聴導犬）などに対する理解促進
- コ 適切な指導者
- サ スポーツ用具等の貸出し
- シ 施設の利用料減免（利用料が安くなったり、無料になったりする）
- ス その他（ ）
- セ 特にない

《全体集計結果》

全員に、運動やスポーツをするにあたって、必要だと思う支援についてたずねたところ、「会場までの送迎」（18.8%）が最も高く、次いで「障害にあわせたプログラムの充実」（18.2%）、「適切な指導者」（18.0%）となった。なお、「特にない」は、46.3%であった。

《属性別集計結果》

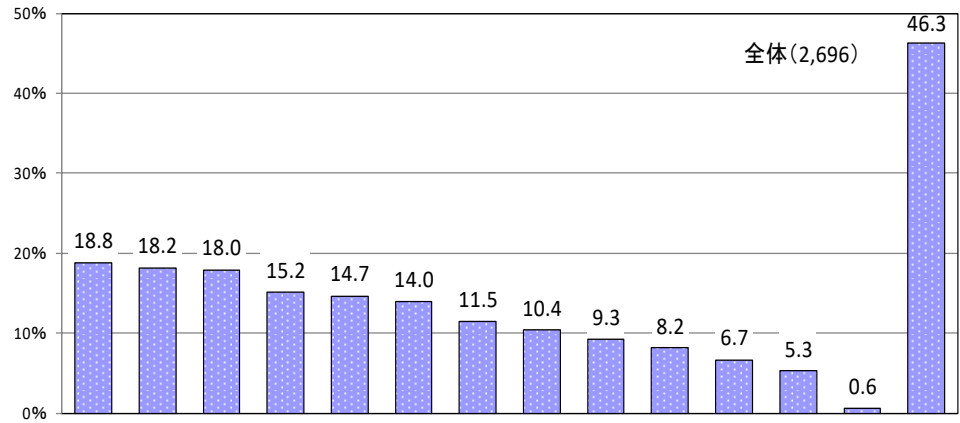
障害種別でみると、「障害にあわせたプログラムの充実」は、知的障害（29.5%）が音声・言語・そしゃく障害を除く各障害に比べて高かった。

性別でみると、「スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化」は、女性（15.7%）が男性（12.8%）に比べて高かった。

年代別でみると、「障害にあわせたプログラムの充実」は、18～19歳（37.3%）、6～17歳（29.1%）が20代以上に比べて高かった。また、「会場までの送迎」は、70代以上（25.5%）が18～19歳を除く各年代に比べて高かった。

【図表４－２：運動・スポーツをする際に必要な支援／複数回答】

(%)



	サンプル数	会場までの送迎	障害にあわせたプログラムの充実	適切な指導者	施設の利用率減免（利用料が安くなった）	交通機関（電車やバス）やまちのバリアフリー化	のスタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化	優先的に使える施設が増える（障害者が優先的に使える施設が増える）	障害者への施設開放の促進（障害者が優先的に使える施設が増える）	法に充実に対応した情報の提供や問合せ方法の充実	介助者や手話通訳などの支援	スポーツ用具等の貸出	施設や用具等を利用する際に必要な手続きの支援	犬、聴導犬などに対する理解促進	障害や障害者、補助犬（盲導犬、介助犬、聴導犬）などに対する理解促進	その他	特になし
全体	2,696	18.8	18.2	18.0	15.2	14.7	14.0	11.5	10.4	9.3	8.2	6.7	5.3	0.6	46.3		
障害者種別	視覚障害	151	13.2	12.6	9.9	13.2	12.6	11.3	8.6	6.6	9.3	7.3	3.3	6.0	0.0	56.3	
	聴覚・平衡機能障害	176	14.8	15.9	14.8	14.2	15.9	15.3	11.4	11.9	12.5	10.8	5.1	6.3	1.1	46.0	
	音声・言語・そしゃく障害	62	19.4	19.4	25.8	12.9	19.4	22.6	16.1	21.0	9.7	6.5	4.8	9.7	0.0	32.3	
	肢体不自由	870	25.9	20.7	18.6	15.3	21.4	21.0	13.2	12.2	13.0	9.5	9.0	7.1	0.5	40.5	
	内部障害	349	14.9	11.5	14.6	15.2	12.6	10.9	8.3	7.7	8.9	7.4	5.4	4.0	0.9	52.4	
	知的障害	495	19.4	29.5	27.7	15.2	10.7	11.9	18.6	15.8	11.9	6.5	7.9	5.7	0.0	35.8	
	精神障害	833	16.2	16.4	17.5	16.4	13.0	10.7	9.4	9.0	6.0	7.6	6.2	4.7	1.1	51.0	
	その他	23	21.7	21.7	17.4	13.0	21.7	21.7	21.7	8.7	8.7	13.0	4.3	4.3	0.0	43.5	
性別	男性	1,555	18.6	18.7	17.6	15.4	14.7	12.8	11.5	11.4	8.8	8.3	6.6	4.8	0.5	45.7	
	女性	1,141	19.1	17.5	18.5	14.8	14.7	15.7	11.4	9.1	10.0	8.0	6.8	6.0	0.8	47.2	
年代別	6～17歳	302	18.2	29.1	24.5	13.9	12.6	9.9	16.9	13.6	8.6	7.9	8.3	5.3	0.7	36.8	
	18～19歳	51	19.6	37.3	25.5	25.5	9.8	17.6	17.6	21.6	15.7	7.8	11.8	7.8	0.0	31.4	
	20代	280	12.5	21.1	21.4	12.5	11.1	11.4	11.1	12.1	9.3	7.1	6.8	6.1	0.0	46.8	
	30代	236	16.1	15.3	16.1	15.7	11.9	10.6	9.7	10.6	8.9	9.3	6.4	4.2	0.4	50.0	
	40代	348	18.4	18.4	16.1	18.4	15.2	14.4	12.4	8.6	9.2	9.5	5.7	6.0	0.9	48.3	
	50代	434	15.0	16.6	16.1	18.0	15.2	9.7	9.7	9.7	7.4	7.4	7.4	6.2	0.9	48.4	
	60代	370	18.4	15.9	16.8	14.6	18.1	17.0	10.5	9.7	6.5	5.7	3.5	4.1	1.1	52.4	
	70代以上	675	25.5	13.9	16.4	12.7	16.0	18.8	10.5	9.2	12.1	9.5	7.6	4.9	0.3	44.6	
	18歳以上	2,394	18.9	16.8	17.1	15.3	15.0	14.5	10.8	10.0	9.4	8.2	6.5	5.3	0.6	47.5	

なお、「その他」への回答は、次のとおりであった。（代表的回答例）

- ・ 一緒に行こうと言ってくれる、やる気にさせてくれる人
- ・ スポーツに掛かる金銭補助

（３）スポーツ観戦する際の障壁

問６（３） スポーツ観戦にあたって、障壁になっているものは何ですか。（当てはまるものすべて）

- ア 障壁はない
- イ 交通手段・移動手段がない
- ウ 施設がバリアフリーでない
- エ 主催者や施設に観戦を断られる
- オ 運動・スポーツに関する情報が得られない
- カ 介助者がいない
- キ 仲間がいない
- ク 家族の負担が大きい
- ケ 金銭的な余裕がない
- コ 時間的な余裕がない
- サ その他（ ）
- シ わからない

《全体集計結果》

全員に、スポーツ観戦にあたって、障壁になっているものについてたずねたところ、「障壁はない」（20.6％）が最も高く、次いで「金銭的な余裕がない」（17.3％）、「交通手段・移動手段がない」（12.9％）となった。なお、「わからない」は、33.3％であった。

《属性別集計結果》

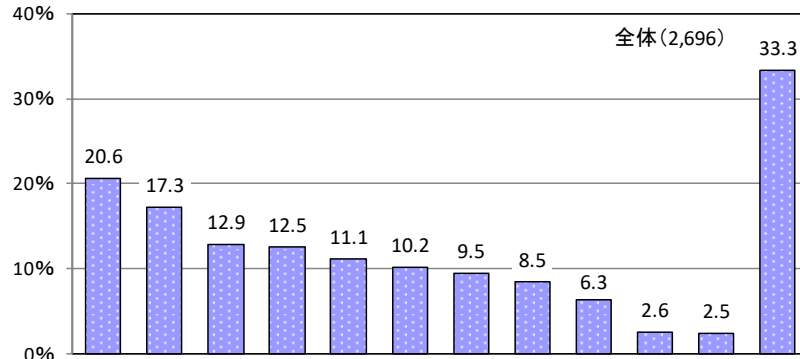
障害種別でみると、「運動・スポーツに関する情報が得られない」は、音声・言語・そしゃく障害（19.4％）が他の障害種別に比べて高かった。また、「金銭的な余裕がない」は精神障害（22.8％）が他の障害種別に比べて高かった。

性別でみると、「家族の負担が大きい」は、女性（14.3％）が男性（11.3％）に比べて高かった。

年代別でみると、「家族の負担が大きい」は、18～19歳（23.5％）が60代（7.0％）、50代（7.1％）、40代（8.6％）、30代（11.4％）に比べて高かった。また、「交通手段・移動手段がない」は、70代以上（19.7％）が50代以下に比べて高かった。

【図表４－３：スポーツ観戦する際の障壁／複数回答】

(%)



		サンプル数	障壁はない	金銭的な余裕がない	交通手段・移動手段がない	家族の負担が大きい	時間的な余裕がない	施設がバリアフリーでない	介助者がいない	仲間がいない	運動・スポーツに関する情報が得られない	主催者や施設に観戦を断られる	その他	わからない
全体		2,696	20.6	17.3	12.9	12.5	11.1	10.2	9.5	8.5	6.3	2.6	2.5	33.3
障害種別	視覚障害	151	12.6	9.9	11.9	9.9	7.9	10.6	10.6	7.3	4.6	4.0	1.3	46.4
	聴覚・平衡機能障害	176	19.3	9.7	14.2	10.8	8.0	13.6	8.0	10.8	9.7	2.8	1.7	37.5
	音声・言語・そしゃく障害	62	9.7	6.5	17.7	14.5	17.7	19.4	11.3	8.1	19.4	6.5	1.6	33.9
	肢体不自由	870	17.4	18.7	20.7	16.9	11.5	19.7	15.4	7.8	7.7	3.9	2.4	27.1
	内部障害	349	28.9	14.3	10.6	7.4	11.5	6.9	7.7	4.0	4.0	1.1	2.6	33.8
	知的障害	495	16.8	14.3	9.9	20.8	13.3	7.7	11.9	10.1	8.1	3.2	2.2	31.5
	精神障害	833	22.3	22.8	9.4	9.8	12.1	5.2	6.4	10.1	4.7	1.7	3.0	35.5
	その他	23	34.8	21.7	17.4	4.3	17.4	17.4	13.0	8.7	17.4	8.7	0.0	21.7
性別	男性	1,555	21.3	17.5	11.9	11.3	11.6	9.4	9.5	8.6	6.8	2.4	2.7	32.0
	女性	1,141	19.6	17.0	14.2	14.3	10.5	11.4	9.6	8.2	5.7	2.7	2.2	35.1
年代別	6～17歳	302	19.2	14.6	8.3	20.2	11.9	8.3	9.3	10.6	10.3	3.3	1.0	33.1
	18～19歳	51	23.5	11.8	7.8	23.5	15.7	7.8	9.8	7.8	9.8	0.0	3.9	25.5
	20代	280	16.1	12.5	6.8	13.6	12.9	8.2	10.0	8.9	6.4	3.2	3.6	39.3
	30代	236	19.9	17.8	9.3	11.4	8.5	8.9	8.1	9.7	4.7	2.1	1.3	38.1
	40代	348	20.1	21.0	10.9	8.6	10.3	7.5	4.6	7.8	5.2	2.9	2.9	37.4
	50代	434	20.7	23.0	11.8	7.1	13.1	10.6	6.9	8.8	5.5	1.2	2.8	32.7
	60代	370	25.9	17.8	14.9	7.0	8.4	11.9	7.8	7.8	5.9	1.9	4.1	30.5
	70代以上	675	20.3	14.8	19.7	16.7	11.3	12.9	15.0	7.4	6.2	3.4	1.8	29.6
	18歳以上	2,394	20.8	17.6	13.5	11.6	11.0	10.5	9.5	8.2	5.8	2.5	2.7	33.3

なお、「その他」への回答は、次のとおりであった。（代表的回答例）

- ・ 体調の変化が大きいので予定通りにいかない
- ・ スポーツを見る事に興味がない、ルールが分からない
- ・ 人が多い所が苦手
- ・ 精神的なもの

（４）スポーツ観戦する際に必要な支援

問６（４） スポーツ観戦にあたって、必要だと思う支援はありますか。（当てはまるものすべて）

- ア スタジアム、アリーナなどの建物や設備のバリアフリー化
- イ 交通機関（電車やバス）やまちのバリアフリー化
- ウ 会場までの送迎
- エ 介助者や手話通訳などの支援
- オ 障害に対応した情報保障の充実
- カ 障害や障害者、補助犬（盲導犬、介助犬、聴導犬）などに対する理解
- キ その他（ ）
- ク 特にない

《全体集計結果》

全員に、スポーツ観戦にあたって、必要だと思う支援についてたずねたところ、「会場までの送迎」（22.0％）が最も高く、次いで「スタジアム、アリーナなどの建物や設備のバリアフリー化」（20.0％）、「交通機関（電車やバス）やまちのバリアフリー化」（18.6％）となった。なお、「特にない」は、53.0％であった。

《属性別集計結果》

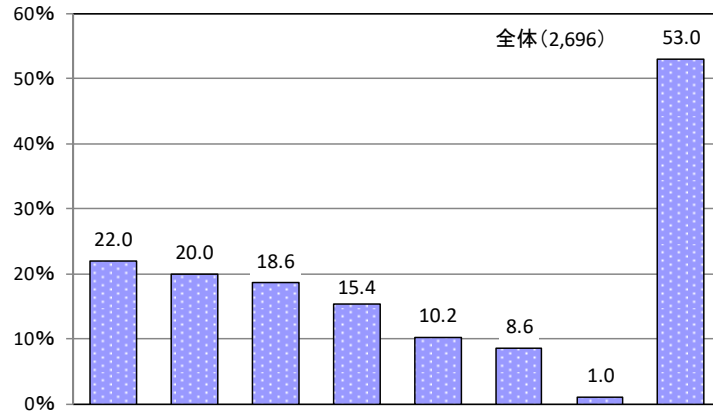
障害種別でみると、肢体不自由の「スタジアム、アリーナなどの建物や設備のバリアフリー化」（31.8％）が、音声・言語・そしゃく障害を除く各障害種別に比べて高かった。

性別でみると、「スタジアム、アリーナなどの建物や設備のバリアフリー化」は、女性（22.7％）が男性（17.9％）に比べて高かった。

年代別でみると、「障害に対応した情報保障の充実」は、18～19歳（25.5％）が40代以上に比べて高かった。また、「特にない」は、20代（60.7％）、30代（58.5％）が70代以上（45.0％）、6～17歳（47.0％）に比べて高かった。

【図表４－４：スポーツ観戦する際に必要な支援／複数回答】

(%)



	サンプル数	会場までの送迎	スタジアム、アリーナなどの建物や設備のバリアフリー化	交通機関（電車やバス）やまちのバリアフリー化	障害に対応した情報保障の充実	介助者や手話通訳などの支援	介助犬、聴導犬（補助犬）などに対する理解	その他	特にない	
全体	2,696	22.0	20.0	18.6	15.4	10.2	8.6	1.0	53.0	
障害種別	視覚障害	151	13.2	16.6	17.2	15.9	9.9	6.6	1.3	57.0
	聴覚・平衡機能障害	176	20.5	23.9	23.9	17.6	14.8	8.0	1.7	52.3
	音声・言語・そしやく障害	62	29.0	27.4	27.4	16.1	16.1	12.9	0.0	38.7
	肢体不自由	870	31.1	31.8	28.0	17.1	14.7	10.1	0.7	40.3
	内部障害	349	18.9	16.3	15.2	10.0	5.4	5.4	0.9	61.6
	知的障害	495	21.2	14.5	13.3	21.6	12.9	12.1	0.6	49.7
	精神障害	833	18.0	13.6	14.4	15.4	7.7	7.9	1.4	60.6
	その他	23	30.4	34.8	26.1	21.7	13.0	13.0	4.3	39.1
性別	男性	1,555	21.4	17.9	17.6	16.1	9.0	9.0	1.1	54.0
	女性	1,141	22.7	22.7	20.0	14.5	11.8	8.0	0.9	51.7
年代別	6～17歳	302	18.9	15.6	17.9	22.8	10.6	13.6	1.0	47.0
	18～19歳	51	19.6	21.6	15.7	25.5	11.8	13.7	0.0	51.0
	20代	280	15.7	15.0	11.1	19.3	9.3	10.0	0.4	60.7
	30代	236	18.6	14.0	11.9	14.8	8.9	5.5	0.4	58.5
	40代	348	19.0	17.5	19.8	12.6	8.6	7.5	0.9	57.2
	50代	434	18.7	18.4	18.7	14.3	7.1	9.4	1.4	57.4
	60代	370	22.4	24.9	20.5	14.1	7.0	6.8	1.1	54.6
	70代以上	675	30.7	25.5	22.8	12.9	15.3	7.4	1.3	45.0
	18歳以上	2,394	22.3	20.5	18.7	14.5	10.2	7.9	1.0	53.8

なお、「その他」への回答は、次のとおりであった。（代表的回答例）

- ・ 洗面所、トイレ等設備の身障者対応の充実
- ・ 料金
- ・ 無料駐車場

IV 資 料

アンケート調査票

令和6年度障害者のスポーツに関する調査

注)「しょうがい」という言葉には、「障がい」「障碍」など様々な表記があります。本調査では、法令等における表記である「障害」を使用しています。

< 調査へのご協力をお願い >

神奈川県では、スポーツを通じた共生社会の実現を目指しています。

そこで、今後の本県における障害者スポーツの推進に向け、障害者のスポーツに関する意識や実態を把握することにより、令和5年3月に見直した県のスポーツ推進計画における数値目標の達成度や、事業の効果等を測ることを目的に、本調査を実施することとしました。趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いいたします。

なお、皆様のご回答は全て統計的に処理し、調査票にご記入いただいた内容を統計の目的以外には使用せず、個別に公表することはありません。

< ご回答にあたってのお願い >

- 回答は、当てはまる項目の記号を選んで囲んでください。
なお、該当するものを複数選ぶ場合、「3つまで」、「すべて」など、選択数が指定されているものがありますので、ご注意ください。
- 回答が「その他」になった場合には、() 内に具体的な内容をご記入ください。
- 質問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、ことわり書きにご注意ください。
- 同居する家族が回答する場合、障害のある方の意向を確認して、回答してください。
- 令和5年4月から令和6年3月までの1年間についてお答えください。
- 調査票は、令和6年7月24日(水)までに、回答、送信くださるようお願いいたします。

<回答上の不明な点、調査についてのお問合せは、次までお願いいたします>

神奈川県立スポーツセンター 事業推進部スポーツ活動支援課スポーツ相談・情報班

住所：藤沢市善行7-1-2

電話：0466 (82) 6395

お問合せフォーム：

<https://dshinsei.e-kanagawa.lg.jp/140007-u/offer/userLoginDispNon.action?tempSeq=6116&accessFrom=>

担当：岩田、柏木

I あなた、あるいはあなたが同居する家族で障害のある方についておたずねします。

問1 次の質問にお答えください。

(1) あなた、あるいはあなたが同居する家族で障害のある方はいますか。

ア あなたご自身 イ 配偶者（夫や妻） ウ 父親 エ 母親 オ 兄弟
カ 姉妹 キ 子ども（小学生以上） ク 子ども（未就学児）
ケ 上記の中で障害のある方はいない

★ ク・ケの場合、調査対象外となります。

★ 小学生以上が対象

★ ご家族の中で複数の対象者がいる場合は、対象者ごとに調査票をご記入ください。

(2) 障害のある方の年齢を教えてください。

さい
★ 小学生以上が対象

(3) 障害のある方の性別を教えてください。

ア 男性 イ 女性

(4) お住まいの市町村をお知らせください。

市町村（ ）

(5) 障害のある方の障害の種類をお答えください。（当てはまるものすべて）

ア 視覚障害 イ 聴覚・平衡機能障害 ウ 音声・言語・そしゃく障害
エ 肢体不自由（上肢） オ 肢体不自由（下肢） カ 肢体不自由（体幹）
キ 肢体不自由（脳原性運動機能障害※） ク 内部障害 ケ 知的障害
コ 精神障害 サ その他（ ）

※ 脳性まひによる脳病変上肢機能障害、脳病変移動機能障害など

(6) 障害のある方は、障害者手帳をお持ちですか。（当てはまるものすべて）

ア 身体障害者手帳 1級 イ 身体障害者手帳 2級
ウ 身体障害者手帳 3級 エ 身体障害者手帳 4級
オ 身体障害者手帳 5級 カ 身体障害者手帳 6級
キ 療育手帳（愛の手帳）A1（最重度） ク 療育手帳（愛の手帳）A2（重度）
ケ 療育手帳（愛の手帳）B1（中度） コ 療育手帳（愛の手帳）B2（軽度）
サ 精神障害者保健福祉手帳 1級 シ 精神障害者保健福祉手帳 2級
ス 精神障害者保健福祉手帳 3級 セ 障害者手帳は持っていない

(7) 平日の日中、主にどこで過ごしましたか。

ア 自分の家 イ 職場（一般企業など） ウ 職場（福祉的就労（就労移行支援、
就労継続支援A型・B型、就労定着支援）の施設） エ 学校
オ 通所施設（生活介護、デイケアなど） カ 入所施設
キ その他（ ）

(8) 運動やスポーツに関してどのような情報が欲しいですか。(当てはまるものすべて)

- ア スポーツ行事やスポーツイベントの情報
- イ 自分が参加できるスポーツ競技会の情報
- ウ 高齢者や障害のある方が参加しやすいイベントや教室の情報
- エ 各種スポーツ教室の案内
- オ スポーツ施設の案内
- カ 各種スポーツ指導者の紹介
- キ 新しいスポーツ、気軽にできるスポーツなどの情報
- ク クラブ・同好会などの活動案内
- ケ 健康・体力づくり情報
- コ スポーツに関する医学的・科学的情報
- サ その他 ()
- シ 特になし

II 障害のある方の運動・スポーツ※の実施状況及び意識についておたずねします。

※ 「運動・スポーツ」には、ルールに基づいて勝敗や記録を競う運動やスポーツだけでなく、散歩、体操をはじめ、健康づくり、リハビリのために、目的を持って自主的に行う身体活動を広く含めます。

問2 障害のある方の運動・スポーツの実施状況及び意識について、次の質問にお答えください。

(1) 学校の保健体育の授業以外で、この1年間に運動・スポーツは行いましたか。(当てはまるものすべて)

- ア ウォーキング、散歩(散策、ペットの散歩など)
- イ 体操(ラジオ体操、職場体操、ストレッチ、エアロビクス、ヨガ、ピラティス、縄跳びなど)
- ウ 室内運動器具(ウェイト器具、ランニングマシン、バランスボールなど)を用いる運動
- エ 陸上競技(ランニング、ジョギングなどの軽い運動も含む)
- オ 水泳・遊泳(水中歩行・水中運動)
- カ 球技(下記の選択肢タ～ニの球技を除く)
- キ ダンス(フォークダンス、ジャズダンス、社交ダンス、フラダンス、バレエ、民謡踊りなど)
- ク 格闘技(ボクシング、レスリング、相撲など)
- ケ 武道(柔道、剣道、空手、合気道など)
- コ 射的(弓道、アーチェリー、ダーツ、スポーツ吹矢など)

- サ ウィンタースポーツ（スキー、スノーボード、スケートなど）
- シ ウォータースポーツ（ボート、ヨット、スキndaダイビング、スクーバダイビング、カヌー、水上バイク、サーフィン、ウィンドサーフィン、ボディボード、ボードセーリングなど）
- ス スカイスポーツ（ハングライダー、パラグライダー、スカイダイビングなど）
- セ アウトドアスポーツ（ハイキング、ワンダーフォーゲル、釣り、登山、キャンプなど）
- ソ サイクリング、モーター（サイクル）スポーツ
- タ ブラインドサッカー
- チ 車いすテニス
- ツ サウンドテーブルテニス
- テ シットティングバレーボール
- ト 車いすバスケットボール
- ナ 車いすラグビー
- ニ ボッチャ
- ヌ 運動あそび（鬼ごっこ、かくれんぼ、鉄棒、ぶらんこなど）
- ネ その他（ ）
- ノ 特にない

★ ノの場合 → （９）へ進みます。

（２） 学校の保健体育の授業以外で、この１年間にどのくらいの頻度で運動やスポーツを行いましたか。

- ア 週 3 日以上（年151日以上）
- イ 週 2 日程度（年101日～150日）
- ウ 週 1 日程度（年51日～100日）
- エ 月に1～3 日程度（年12日～50日）
- オ 3 か月に1, 2 日程度（年4 日～11日）
- カ 年に1～3 日程度
- キ わからない

（３） 運動・スポーツを行っている場所はどこですか。（当てはまるものすべて）

- ア 自宅
- イ 道路や遊歩道
- ウ 広場や公園
- エ 民間のスポーツ施設
- オ 公共のスポーツ施設（障害者専用施設）
- カ 公共のスポーツ施設（障害者専用施設以外）

- キ 小 中 高校の体育施設
 ク 特別支援学校の体育施設
 ケ 職場のスポーツ施設
 コ 福祉施設
 サ 児童通所サービス（放課後等デイサービス等）
 シ 医療機関（病院やリハビリ施設）
 ス 山・川・海
 セ その他（ ）
 ソ わからない

(4) 運動・スポーツと一緒にするのは誰ですか。（当てはまるものすべて）

- ア 一人
 イ 家族
 ウ 福祉施設の職員・仲間
 エ スポーツ教室の指導者・仲間
 オ 地域の公共スポーツ施設の職員・仲間
 カ 障害者専用スポーツ施設の職員・仲間
 キ 障害がある人のサークル・障害者スポーツサークル等の仲間
 ク 障害がある人やない人など様々な人がいるサークルの仲間
 ケ ボランティアの人たち
 コ 学校の先生や学校の友達
 サ 児童通所サービス（放課後等デイサービス等）の職員・仲間
 シ その他の友人・知人
 ス その他（ ）
 セ わからない

(5) 運動・スポーツをする理由は何ですか。（当てはまるものすべて）

- ア 健康・体力づくりのため
 イ 楽しみ、気晴らしのため
 ウ 運動不足の解消のため
 エ 精神の修養や訓練のため（心をきたえるため）
 オ 自己の記録や能力を向上させるため
 カ 家族の触れ合いのため
 キ 友人、仲間との交流のため
 ク 美容や肥満解消（ダイエット）のため
 ケ リハビリテーションや医療・治療のため

- コ 障害者^{しょうがいしゃ}スポーツ大会^{たいかい}に参加^{さんか}するため
- サ その他^た（ ）
- (6) 運動・スポーツ^{うんどう}を始めた^{はじめ}きっかけ^{なん}は何^あですか。(当てはまるものすべて)
- ア 家族^{かぞく}に奨め^{すす}られた
- イ 障害^{しょうがい}のある(友人^{ゆうじん}・知人^{ちじん}・同僚^{どうりょう})に奨め^{すす}られた
- ウ 障害^{しょうがい}のない(友人^{ゆうじん}・知人^{ちじん}・同僚^{どうりょう})に奨め^{すす}られた
- エ 医師^{いし}に奨め^{すす}られた
- オ 作業療法士^{さぎょうりょうほうし}(O T)・理学療法士^{りがくりょうほうし}(P T)・看護師等^{かんごしとう}の医療従事者^{いりょうじゅうじしゃ}に奨め^{すす}られた
- カ 学校^{がっこう}の先生^{せんせい}に奨め^{すす}られた
- キ 所属^{しよぞく}する団体^{だんたい}(会社等^{かいしゃとう})に奨め^{すす}られた
- ク スポーツ団体等^{だんたいとう}の関係者^{かんけいしゃ}から誘^{さそ}われた
- ケ 有名選手^{ゆうめいせんしゅ}・パラリンピアン^{えいきよう}の影響^{えいぎやう}
- コ テレビや新聞^{しんぶん}、インターネット等^{とう}の影響^{えいぎやう}
- サ 漫画^{まんが}、ドラマ、映画等^{えいがとう}の影響^{えいぎやう}
- シ 現地^{げんち}やテレビ等^{とう}でそのスポーツ^みを観^みた
- ス その他^た（ ）
- セ 特に理由^{とく りゆう}はない・なんとなく
- (7) 今後^{こんご}(も) 行^{おこな}いたいと思う運動・スポーツ^{うんどう}はありますか。(当てはまるものすべて)
- ア ウォーキング、散歩^{さんぽ}(散策^{さんさく}、ペットの散歩^{さんぽ}など)
- イ 体操^{たいそう}(ラジオ体操^{たいそう}、職場体操^{しよくばたいそう}、ストレッチ、エアロビクス、ヨガ、ピラティス、縄跳^{なわと}びなど)
- ウ 室内運動器具^{しつないうんどう きぐ}(ウェイト器具^{きぐ}、ランニングマシン、バランスボールなど)を用^{もち}いる運動^{うんどう}
- エ 陸上競技^{りくじようきやうぎ}(ランニング、ジョギングなどの軽い運動^{かる うんどう}も含^{ふく}む)
- オ 水泳・遊泳^{すいえい ゆうえい}(水中歩行^{すいちゆうほこう}・水中運動^{すいちゆううんどう})
- カ 球技^{きゆうぎ}(下記の選択肢^{か き}タ～ニの球技^{きゆうぎ}を除^{のぞ}く)
- キ ダンス(フォークダンス、ジャズダンス、社交ダンス^{しゃこう}、フラダンス、バレエ、民謡踊^{みんようおど}りなど)
- ク 格闘技^{かくとうぎ}(ボクシング、レスリング、相撲^{すもう}など)
- ケ 武道^{ぶどう}(柔道^{じゆうどう}、剣道^{けんどう}、空手^{からて}、合気道^{あいきどう}など)
- コ 射的^{しゃてき}(弓道^{きゆうどう}、アーチェリー、ダーツ、スポーツ吹矢^{ふきや}など)
- サ ウィンタースポーツ(スキー、スノーボード、スケートなど)

シ ウォータースポーツ（ボート、ヨット、スキンドайビング、スクーバダイビング、カヌー、水上^{すいじょう}バイク、サーフィン、ウィンドサーフィン、ボディボード、ボードセーリングなど）

ス スカイスポーツ（ハングライダー、パラグライダー、スカイダイビングなど）

セ アウトドアスポーツ（ハイキング、ワンダーフォーゲル、釣り、登山^{とさん}、キャンプなど）

ソ サイクリング、モーター（サイクル）スポーツ

タ ブラインドサッカー

チ ^{くるま}車いすテニス

ツ サウンドテーブルテニス

テ シッティングバレーボール

ト ^{くるま}車いすバスケットボール

ナ ^{くるま}車いすラグビー

ニ ボッチャ

ヌ ^{うんどう}運動あそび（鬼ごっこ、かくれんぼ、鉄棒^{てつぼう}、ぶらんこなど）

ネ その他（ ）

ノ ^{とく}特にない

（８） スポーツクラブやサークルに^{しよぞく}所属していますか。

ア ^{そうごうがたちいき}総合型地域スポーツクラブに^{しよぞく}所属している

イ ^{ちいきじゅうみん}地域住民が^{ちゅうしん}中心となったクラブ・^{どうこうかい}同好会・サークル（^{そうごうがたちいき}総合型地域スポーツクラブ以外）に^{しよぞく}所属している

ウ ^{みんかん}民間の^{かいいんせい}会員制スポーツクラブやフィットネスクラブに^{しよぞく}所属している

エ ^{がっこう}学校のOB・OGなどが^{ちゅうしん}中心となったクラブ・^{どうこうかい}同好会・サークルに^{しよぞく}所属している

オ ^{がっこう}学校の^{うんどうぶ}運動部・クラブ・サークル（^{ざいこうせい}在校生のみ）に^{しよぞく}所属している

カ ^{しよくば}職場の^{なかま}仲間を^{ちゅうしん}中心としたクラブ・^{どうこうかい}同好会・サークルに^{しよぞく}所属している

キ ^{ゆうじん}友人・^{ちじん}知人が^{ちゅうしん}中心のクラブ・^{どうこうかい}同好会・サークルに^{しよぞく}所属している

ク ^{しょうがいしやゆうせんしせつ}障害者優先施設でのクラブ・サークル^{かつどう}活動に^{しよぞく}所属している

ケ その他（ ）に^{しよぞく}所属している

コ ^{しよぞく}所属していない

★ （１１） ^{すす}へ進みます。

（９） （（１）が^{かたむ}ノの方向け）^{うんどう}運動やスポーツを^{おこな}行っていないのは、なぜですか。（^あ当てはまるものすべて）

ア ^{かつどう}活動したいが、^{しんたいてき}身体的にできない

イ ^{かつどう}活動したいが、^{みちか}身近なところに^{うんどう}運動やスポーツができる^{ばしょ}場所がない

ウ ^{かつどう}活動したいが、^{うんどう}運動やスポーツができる^{ばしょ}場所への^{いどうしゅだん}移動手段がない

- エ 活動^{かつどう}したいが、自分^{じぶん}に合^あった運動^{うんどう}やスポーツ^{じょうほう}の情 報^{じょうほう}がない
- オ 活動^{かつどう}したいが、一緒^{いっしょ}にできる人^{ひと}がいない
- カ 活動^{かつどう}したいが、時間^{じかん}がない
- キ 活動^{かつどう}したいが、必要^{ひつよう}な競技用具^{きょうぎようぐ}や補助具^{ほじょぐ}がない
- ク その他^た ()
- ケ 活動^{かつどう}したいと思^{おも}わない

★ ア～クの場合^{ばあい} → (11) へ進^{すす}みます。

- (10) ((9) がケの方向^{かたむ}け)、「活動^{かつどう}したいと思^{おも}わない」と回答^{かいとう}したのはどのような理由^{りゆう}からで
すか。(当^あてはまるものすべて)

- ア 運動^{うんどう}・スポーツ^{きら}が嫌^{きら}いだから
- イ 運動^{うんどう}・スポーツ^{きょうみ}に興^{きょうみ}味が^{きょうみ}ないから
- ウ 疲^{つか}れるから
- エ 人前^{ひとまえ}に出^でるのが好^すきではないから
- オ 学校^{がっこう}の体育^{たいいく}や部活動^{ぶかつどう}等^{とう}で苦手意識^{にがていしき}を持^もったから
- カ スポーツ以外^{いがい}に興^{しゅみ}味^{しゅみ}があるから
- キ 忙^{いそが}しいから
- ク その他^た ()
- ケ わからない

★ 問 3 (1) へ進^{すす}みます。

- (11) どのような運動^{うんどう}やスポーツ^{さんか}であれば参加^{さんか}したいと思^{おも}いますか。(当^あてはまるものすべて)

- ア 予約^{よやく}や申^{もう}し込^こみなしに、参加^{さんか}したいときに参加^{さんか}できる
- イ ルールが簡^{かん}単^{たん}
- ウ 新^{あた}しい道具^{どうぐ}やウエア^かを買^かわなくてよい
- エ 自分^{じぶん}のペース^あに合^あわせてできる
- オ 上^{じょう}達^{たつ}したことが分^わかる
- カ 失^{しつぱい}敗^{ぱい}しても笑^{わら}われたり恥^はずかしい思^{おも}いをしな
- キ 好^すきな種^{しゅ}目^{もく}を選^{えら}べる
- ク やったことがないスポーツ^{ため}を試^{ため}せる
- ケ 汗^{あせ}をかか
- コ 有^{ゆう}名^{めい}な選^{せん}手^{しゅ}に会^あえる
- サ 親^{おや}子^こで一^{いっ}緒^{しょ}に参加^{さんか}ができる
- シ 新^{あた}しい友^{とも}達^{だち}をつくること
- ス スポーツ以外^{いがい}に芸^{げい}術^{じゆつ}・文^{ぶん}化^か的^{てき}なパフオーマンス^{たの}も楽^{たの}しめる
- セ その他^た ()

Ⅲ 県や市町村のスポーツ施策についておたずねします。

問3 障害のある方の、県や市町村が主催するスポーツ行事などへの参加についてお答えください。

- (1) この1年間に県や市町村が主催するスポーツ行事に参加したことがありますか。1つだけ選んでください。(行事名または内容を記入してください)
- ア 参加した (参加した行事名または内容 _____)
- イ 観に行った (観に行った行事名または内容 _____)
- ウ 参加しなかった
- (2) この1年間に県や市町村が主催するスポーツ教室に参加したことがありますか。(参加したスポーツ種目を記入してください)
- ア 参加した (参加した種目 _____)
- イ 参加しなかった
- (3) スポーツ行事やスポーツ教室に参加したいと思いますか。1つだけ選んでください。(ア、イを選んだ場合はどのようなスポーツ行事や教室に参加したいか記入してください)
- ア ぜひ参加したい (参加したいスポーツ行事や教室 _____)
- イ できれば参加したい (参加したいスポーツ行事や教室 _____)
- ウ あまり参加したくない
- エ 参加するつもりはない

問4 障害のある方の、神奈川県かながわけんのスポーツ推進にかかる取組の認知度についてお答えください。

- (1) 「かながわパラスポーツ」※について知っていますか。1つだけ選んでください。

※ 「かながわパラスポーツ」とは、関心、目的、体力、年齢、運動機能及び健康状態に応じて県民が、生涯にわたり楽しみながらスポーツをする、観る及び支えることをいいます。

- ア 内容を詳しく知っている
- イ 知っている (聞いたことはある)
- ウ 知らない

Ⅳ 障害のある方の運動・スポーツの観戦についておたずねします。

問5 スポーツ観戦についてお答えください。

- (1) スポーツ観戦について関心がありますか。
- ア ある
- イ ない

- (2) この1年間で直接会場へ行ってスポーツ観戦をしましたか。
- ア した
- イ していない
- (3) 直接会場へ行ってスポーツ観戦をしたら、どのような規模のスポーツ観戦を
たいですか。2つまで選んでください。
- ア オリンピックやパラリンピックなど国際大会
- イ 国内のプロスポーツ
- ウ 全国レベルの大会
- エ 県レベルの大会
- オ その他 ()
- カ 特になし
- (4) 直接会場へ行ってスポーツ観戦をしたら、どのような競技を観戦したいです
か。3つまで選んでください。(ア～スの選択数とセ～チの種目名の合計が3つまでにな
るようにしてください)
- ア 陸上競技
- イ マラソン
- ウ 水泳競技
- エ 柔道、剣道、相撲、空手
- オ ボクシング、レスリング
- カ 弓道、アーチェリー
- キ セーリング
- ク 野球、ソフトボール
- ケ サッカー、フットサル
- コ バレーボール
- サ テニス、卓球、バドミントン
- シ バスケットボール
- ス ラグビー
- セ その他の球技スポーツ
(種目名) (種目名) (種目名)
- ソ アーバンスポーツ※
(種目名) (種目名) (種目名)
- タ 障害者スポーツ (パラスポーツ)
(種目名) (種目名) (種目名)
- チ その他のスポーツ
(種目名) (種目名) (種目名)
- ツ 特になし

※ 「アーバンスポーツ」とは、スケートボード、スポーツクライミング、自転車^{じてんしゃ}BMX、3×3バスケットボール、プレイキンなど、広い場所を必要としないなど都市住民が参加しやすい都市型スポーツです。

(5) この1年間^{ねんかん}でテレビやインターネットなどでスポーツ観戦^{かんせん}をしましたか。

ア した

イ していない

(6) テレビやインターネットなどでスポーツ観戦^{かんせん}をしたら、どのような規模^{きぼ}のスポーツ観戦^{かんせん}をしたいですか。2つまで選んでください。

ア オリンピックやパラリンピックなど国際大会^{こくさいたいかい}

イ 国内^{こくない}のプロスポーツ

ウ 全国^{ぜんこく}レベルの大会^{たいかい}

エ 県^{けん}レベルの大会^{たいかい}

オ その他 ()

カ 特^{とく}になし

(7) テレビやインターネットなどでスポーツ観戦^{かんせん}をしたら、どのような競技^{きやうぎ}を観戦^{かんせん}したいですか。3つまで選んでください。(ア～スの選択数とセ～チの種目名^{しゆもくめい}の合計^{ごうけい}が3つまでになるようにしてください)

ア 陸上競技^{りくじやうきやうぎ}

イ マラソン

ウ 水泳競技^{すいえいきやうぎ}

エ 柔道^{じゅうどう}、剣道^{けんどう}、相撲^{すもう}、空手^{からて}

オ ボクシング、レスリング

カ 弓道^{きやうどう}、アーチェリー

キ セーリング

ク 野球^{やきゅう}、ソフトボール

ケ サッカー、フットサル

コ バレーボール

サ テニス、卓球^{たつきゅう}、バドミントン

シ バスケットボール

ス ラグビー

セ その他の球技スポーツ

(種目名^{しゆもくめい}) (種目名^{しゆもくめい}) (種目名^{しゆもくめい})

ソ アーバンスポーツ※

(種目名^{しゆもくめい}) (種目名^{しゆもくめい}) (種目名^{しゆもくめい})

タ 障害者^{しょうがいしゃ}スポーツ (パラスポーツ)

- (種目名) (種目名) (種目名)
- チ その他のスポーツ
(種目名) (種目名) (種目名)
- ツ 特になし

※ 「アーバンスポーツ」とは、スケートボード、スポーツクライミング、自転車BMX、3×3バスケットボール、ブレイキンなど、広い場所を必要としないなど都市住民が参加しやすい都市型スポーツです。

V 障害のある方の運動・スポーツに関する障壁及び必要な支援についておたずねします。

問6 運動・スポーツに関する障壁についてお答えください。

- (1) 運動やスポーツをするにあたって、障壁になっているものは何ですか。(当てはまるものすべて)

- ア 障壁はない
- イ 交通手段・移動手段がない
- ウ 運動・スポーツをできる場所がない
- エ 施設がバリアフリーでない
- オ 施設に利用を断られる
- カ 運動・スポーツに関する情報が得られない
- キ 指導者がいない
- ク 介助者がいない
- ケ 仲間がいない
- コ 家族の負担が大きい
- サ 金銭的な余裕がない
- シ 時間的な余裕がない
- ス 運動・スポーツを行うための用具がない(障害者用)
- セ その他()
- ソ わからない

- (2) 運動やスポーツをするにあたって、必要だと思う支援はありますか。(当てはまるものすべて)

- ア スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化
- イ 交通機関(電車やバス)やまちのバリアフリー化
- ウ 会場までの送迎
- エ 障害者への施設開放の促進(障害者が優先的に使える施設が増える)
- オ 障害にあわせたプログラムの充実

- カ 介助者や手話通訳などの支援
- キ 障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実
- ク 施設や用具等を利用する際に必要な手続きの支援
- ケ 障害や障害者、補助犬（盲導犬、介助犬、聴導犬）などに対する理解促進
- コ 適切な指導者
- サ スポーツ用具等の貸出し
- シ 施設の利用料減免（利用料が安くなったり、無料になったりする）
- ス その他（ ）
- セ 特になし

(3) スポーツ観戦にあたって、障壁になっているものは何ですか。（当てはまるものすべて）

- ア 障壁はない
- イ 交通手段・移動手段がない
- ウ 施設がバリアフリーでない
- エ 主催者や施設に観戦を断られる
- オ 運動・スポーツに関する情報が得られない
- カ 介助者がいない
- キ 仲間がいない
- ク 家族の負担が大きい
- ケ 金銭的な余裕がない
- コ 時間的な余裕がない
- サ その他（ ）
- シ わからない

(4) スポーツ観戦にあたって、必要だと思える支援はありますか。（当てはまるものすべて）

- ア スタジアム、アリーナなどの建物や設備のバリアフリー化
- イ 交通機関（電車やバス）やまちのバリアフリー化
- ウ 会場までの送迎
- エ 介助者や手話通訳などの支援
- オ 障害に対応した情報保障の充実
- カ 障害や障害者、補助犬（盲導犬、介助犬、聴導犬）などに対する理解
- キ その他（ ）
- ク 特になし

【本調査にご意見・ご要望がありましたらご自由にお書きください。】

質問は以上で終わりです。

いただいたご意見は、これからのスポーツ振興に役立ててまいります。

ご協力ありがとうございました。

誠に勝手ながら令和6年7月24日(水)までに、回答、送信くださいますよう、お願い申し上げます。

**令和6年度 障害者のスポーツに関する調査
結果報告書**

発 行 神奈川県立スポーツセンター
〒251-0871 藤沢市善行7-1-2
電話 (0466) 81-2570

発 行 日 令和7 (2025) 年 3 月



神奈川県

スポーツセンター 電話 (0466) 81-2570 ファクシミリ (0466) 83-4622
藤沢市善行 7-1-2 〒251-0871